

【東洋文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
1301001	系共通科目(国語学)	講義	2-4	4	通年	木1	大槻 信		東洋文化学系1
1303001	系共通科目(国文学)	講義	2-4	4	通年	金1	金光 桂子		東洋文化学系2
1402001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	前期	木1	池田 巧		東洋文化学系3
1404001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	後期	木1	池田 巧		東洋文化学系4
1406001	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	前期	金5	緑川 英樹		東洋文化学系5
1408001	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	後期	金5	緑川 英樹		東洋文化学系6
1502001	系共通科目(中国哲学史)	講義	1-4	2	前期	金4	宇佐美 文理		東洋文化学系7
1504001	系共通科目(中国哲学史)	講義	1-4	2	後期	金4	宇佐美 文理		東洋文化学系8
1602001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)	講義	1-4	2	前期	月3	天野 恭子		東洋文化学系9
1604001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)	講義	1-4	2	後期	月3	横地 優子		東洋文化学系10
1702001	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	前期	水4	VASUDEVA, Somdev		東洋文化学系11
1704001	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	後期	水4	VASUDEVA, Somdev		東洋文化学系12
1802001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	前期	月2	宮崎 泉		東洋文化学系13
1804001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	後期	月2	宮崎 泉		東洋文化学系14
1330001	国語学国文学	特殊講義	3-4	4	通年	月2	河村 瑛子		東洋文化学系15
1330003	国語学国文学	特殊講義	3-4	4	通年	水5	田中 草大		東洋文化学系16
1330002	国語学国文学	特殊講義	2-4	4	通年	火2	池田 恭哉		東洋文化学系17
1331001	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	須田 千里		東洋文化学系18
1331002	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	須田 千里		東洋文化学系19
1331003	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	佐野 宏		東洋文化学系20
1331004	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	佐野 宏		東洋文化学系21
1331005	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	長谷川 千尋		東洋文化学系22
1331006	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	長谷川 千尋		東洋文化学系23
1331009	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	大谷 節子		東洋文化学系24
1340001	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	金5	大槻 信		東洋文化学系25
1340002	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	火3	金光 桂子		東洋文化学系26
1340003	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	月4	河村 瑛子		東洋文化学系27
1340004	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	月3	田中 草大		東洋文化学系28
1341001	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	火4	緑川 英樹		東洋文化学系29
1341002	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	火4	緑川 英樹		東洋文化学系30
1341003	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	水2	本井 牧子		東洋文化学系31
1341004	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	水2	本井 牧子		東洋文化学系32
1341005	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	金2	橋本 行洋		東洋文化学系33
1341006	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	金2	橋本 行洋		東洋文化学系34
1341007	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	木3	峯村 至津子		東洋文化学系35
1341008	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	木3	峯村 至津子		東洋文化学系36
1350001	国語学国文学	講読	2-4	4	通年	金3	岡村 弘樹		東洋文化学系37
1345001	国語学国文学	卒論演習	4	4	通年	月1	大槻 信, 金光 桂子, 河村 瑛子, 田中 草大		東洋文化学系38
1431001	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	永田 知之		東洋文化学系39
1431002	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	永田 知之		東洋文化学系40
1431003	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	道坂 昭廣		東洋文化学系41
1431004	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	道坂 昭廣		東洋文化学系42
1431005	中国語学中国文学	特殊講義	2-4	2	後期	月3	木津 祐子		東洋文化学系43
1431006	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	松江 崇		東洋文化学系44
1431007	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	松江 崇		東洋文化学系45
1431008	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	金1	野原 将揮		東洋文化学系46
1431009	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	野原 将揮		東洋文化学系47
1431012	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	浅見 洋二		東洋文化学系48
1447001	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	水3	成田 健太郎	語学演習	東洋文化学系49
1447002	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	水3	成田 健太郎	語学演習	東洋文化学系50
1447003	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	木2	木津 祐子	語学演習	東洋文化学系51
1447004	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	木2	木津 祐子	語学演習	東洋文化学系52
1449001	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	火4	緑川 英樹	文学演習	東洋文化学系53
1449002	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	火4	緑川 英樹	文学演習	東洋文化学系54
1451001	中国語学中国文学	講読	2-4	2	前期	月5	成田 健太郎		東洋文化学系55
1451002	中国語学中国文学	講読	2-4	2	後期	月5	成田 健太郎		東洋文化学系56
1464001	中国語学中国文学	外国語実習	4	1	前期	木4	王 宜瑗		東洋文化学系57
1464002	中国語学中国文学	外国語実習	4	1	後期	木4	王 宜瑗		東洋文化学系58
1464003	中国語学中国文学	外国語実習	3-4	1	前期	木3	王 宜瑗		東洋文化学系59
1464004	中国語学中国文学	外国語実習	3-4	1	後期	木3	王 宜瑗		東洋文化学系60
1445001	中国語学中国文学	卒論演習	4	2	通年	水2	木津 祐子, 緑川 英樹, 成田 健太郎		東洋文化学系61
1530001	中国哲学史	特殊講義	3-4	4	通年	金5	宇佐美 文理		東洋文化学系62
1530002	中国哲学史	特殊講義	3-4	4	通年	水1	池田 恭哉		東洋文化学系63
1531001	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	集中	三浦 秀一		東洋文化学系64
1531002	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	火1	永田 知之		東洋文化学系65
1531003	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	火1	永田 知之		東洋文化学系66
1531004	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系67
1531005	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系68
1531006	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	火4	船山 徹		東洋文化学系69
1531007	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	火4	船山 徹		東洋文化学系70
1540001	中国哲学史	演習	3-4	4	通年	水5	宇佐美 文理		東洋文化学系71

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
1540002	中国哲学史	演習	3-4	4	通年	月2	池田 恭哉		東洋文化学系72
1541001	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	金3	吉本 道雅		東洋文化学系73
1541002	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	金3	吉本 道雅		東洋文化学系74
1541003	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	月3	古勝 隆一		東洋文化学系75
1541004	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	月3	古勝 隆一		東洋文化学系76
1541005	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	金2	中 純夫		東洋文化学系77
1541006	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	金2	中 純夫		東洋文化学系78
1550001	中国哲学史	講読	2-4	4	通年	火2	池田 恭哉		東洋文化学系79
1633001	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	横地 優子		東洋文化学系80
1633002	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系81
1633003	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系82
1633004	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	高橋 健二		東洋文化学系83
1633007	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		東洋文化学系84
1633008	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		東洋文化学系85
1644003	インド古典学	演習	3-4	2	前期	金3	横地 優子		東洋文化学系86
1644004	インド古典学	演習	3-4	2	前期	火5	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系87
1644011	インド古典学	演習	3-4	2	後期	火5	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系88
1644007	インド古典学	演習	3-4	2	前期	水2	天野 恭子		東洋文化学系89
1644008	インド古典学	演習	3-4	2	前期	月2	Tao PAN		東洋文化学系90
1644001	インド古典学	演習	3-4	2	後期	月2	Tao PAN		東洋文化学系91
1644002	インド古典学	演習	2-4	2	後期	月3	Tao PAN		東洋文化学系92
1644005	インド古典学	演習	2-4	2	前期	木4	山口 周子		東洋文化学系93
1644006	インド古典学	演習	2-4	2	後期	木4	芳原 綾子		東洋文化学系94
1644009	インド古典学	演習	3-4	2	前期	火1	横地 優子, VASUDEVA,Somdev, Tao PAN		東洋文化学系95
1644010	インド古典学	演習	3-4	2	後期	火1	横地 優子, VASUDEVA,Somdev, Tao PAN		東洋文化学系96
1653001	インド古典学	講読	2-4	2	前期	月4	横地 優子		東洋文化学系97
1653002	インド古典学	講読	2-4	2	後期	月4	天野 恭子		東洋文化学系98
1653003	インド古典学	講読	3-4	2	前期	木3	Tao PAN		東洋文化学系99
1653004	インド古典学	講読	3-4	2	後期	木3	Tao PAN		東洋文化学系100
1653006	インド古典学	講読	3-4	2	後期	火2	DEROCHE,Marc-Henri Jean		東洋文化学系101
9616001	インド古典学/仏教学	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	東洋文化学系102
9617001	インド古典学/仏教学	語学	1-4	8	通年	月5,木5	Tao PAN	学部共通科目	東洋文化学系103
9633001	インド古典学	語学	1-4	4	通年	金5	小松 久恵	学部共通科目	東洋文化学系104
9659001	インド古典学	語学	2-4	2	前期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	東洋文化学系105
9660001	インド古典学	語学	2-4	2	後期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	東洋文化学系106
1831001	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	宮崎 泉		東洋文化学系107
1831002	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	宮崎 泉		東洋文化学系108
1831003	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	船山 徹		東洋文化学系109
1831004	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	船山 徹		東洋文化学系110
1831005	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	木5	室寺 義仁		東洋文化学系111
1831006	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	木5	室寺 義仁		東洋文化学系112
1831007	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	DEROCHE,Marc-Henri Jean		東洋文化学系113
1831008	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系114
1831009	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系115
1831010	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	DEROCHE,Marc-Henri Jean		東洋文化学系116
1841001	仏教学	演習	3-4	2	前期	火3	宮崎 泉		東洋文化学系117
1841002	仏教学	演習	3-4	2	後期	火3	宮崎 泉		東洋文化学系118
1841003	仏教学	演習	3-4	2	前期	集中	加納 和雄		東洋文化学系119
1841004	仏教学	演習	3-4	2	前期	水4	熊谷 誠慈		東洋文化学系120
1841005	仏教学	演習	3-4	2	後期	水4	熊谷 誠慈		東洋文化学系121
1841006	仏教学	演習	3-4	2	前期	火2	佐藤 直実		東洋文化学系122
1841007	仏教学	演習	3-4	2	後期	月5	志賀 浄邦		東洋文化学系123
1841008	仏教学	演習	2-4	2	前期	木4	山口 周子		東洋文化学系124
1841009	仏教学	演習	2-4	2	後期	木4	芳原 綾子		東洋文化学系125
1841010	仏教学	演習	3-4	2	後期	水5	岸野 良治		東洋文化学系126
1851001	仏教学	講読I	3-4	2	前期	木3	Tao PAN		東洋文化学系127
1851002	仏教学	講読I	3-4	2	後期	木3	Tao PAN		東洋文化学系128
1853002	仏教学	講読II	3-4	2	後期	火2	DEROCHE,Marc-Henri Jean		東洋文化学系129
9628001	仏教学	語学	2-4	2	前期	月1	宮崎 泉	学部共通科目	東洋文化学系132
9629001	仏教学	語学	2-4	2	後期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	東洋文化学系133
9630001	仏教学	語学	3-4	2	前期	水1	高橋 慶治	学部共通科目	東洋文化学系134
9630002	仏教学	語学	3-4	2	後期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	東洋文化学系135

東洋文化学系1

科目ナンバリング		U-LET10 21301 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国語学)(講義) Japanese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本語の特徴									
【授業の概要・目的】											
日本語を日本語たらしめているのは何であろうか。本講義では、日本語の様々な側面に注目しながら、日本語の歴史をたどる。今年度は、日本語の音・文法・語彙・文字を中心に概説しながら、関連する諸問題について考察を加える。日本語の特性とその歴史を知ることが目的とする。											
【到達目標】											
日本語の音・文法・語彙・文字の歴史的展開を知り、それを通して日本語の特性について理解する。											
【授業計画と内容】											
講義を主体とするが、可能な範囲で発表や資料講読などを交える。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎する。知識よりも思考を重視する。 主たる講義内容は以下の通り。前期は音・文法・語彙を中心に、後期は文字を中心に論じる予定である。 基本的に以下の計画によって講義を進めるが、内容の順序や回数を変えることがある。											
【前期】											
第1回イントロダクション											
第2回言語と思考											
第3回日本語の特徴 前半											
第4回日本語の特徴 後半											
第5回日本語の音											
第6回五十音図											
第7回発表											
第8回発表											
第9回音と文法 前半											
第10回音と文法 後半											
第11回音と語彙 前半											
第12回音と語彙 後半											
第13回発表											
第14回発表											
第15回まとめ											
【後期】											
第1回イントロダクション											
第2回文字についての導入 前半											
第3回文字についての導入 後半											
第4回日本語の文字 前半											
----- 系共通科目(国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国語学)(講義)(2)

第5回資料講読  
第6回日本語の文字 後半  
第7回資料講読  
第8回日本語の文字の歴史 前半  
第9回資料講読  
第10回日本語の文字の歴史 後半  
第11回資料講読  
第12回発表  
第13回発表  
第14回まとめ  
第15回期末レポート

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績はレポートを中心に評価し発表、プリントへの回答などを平常点として加味する。  
概ね毎回「プリント」課題を配布し回収する。  
期末にレポートを課す。  
「レポート：平常点」は「50：50」を基本とする。

【教科書】

木田章義編『国語史を学ぶ人のために』（世界思想社、2013年）ISBN:978-4-7907-1596-2  
ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

『国語史を学ぶ人のために』の指定部分を予習すること。  
また、授業中にあげる資料や参考文献を読むことが良い復習となる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系2

科目ナンバリング		U-LET10 21303 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国文学)(講義) Japanese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		国文学入門									
【授業の概要・目的】											
古代から近世に至る物語文学史を講述する。演劇などを含む広義の「物語」を話型ごとに分類して時代による変遷をたどり、その変遷の背景にどのような社会的・思想的・文化的要因があるかを考える。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな時代とジャンルの文学作品に触れることにより、古典文学史の流れを実際の作品に即して理解する。</li> <li>・古典文学作品をその時代の社会制度・思想・文化等に照らして理解し、問題点を発見する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマを取り上げる予定。ただし進捗状況によって変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 物語研究の目的と方法</li> <li>3. 小ざ子譚 - 一寸法師</li> <li>4. 小子譚 - 小男の草子</li> <li>5. 天人女房譚 - 竹取物語</li> <li>6. 天人女房譚 - 源氏物語</li> <li>7. 妻争い譚 - 万葉集</li> <li>8. 妻争い譚 - 大和物語</li> <li>9. 妻争い譚 - 雨月物語</li> <li>10. 継子譚 - 住吉物語</li> <li>11. 継子譚 - うつほ物語</li> <li>12. 継子譚 - 鉢かづき</li> <li>13. 継子譚 - 岩屋の草子</li> <li>14. 継子譚 - 撰州合邦辻</li> <li>15. 物語観の変遷 - 中世</li> <li>16. 物語観の変遷 - 近世</li> <li>17. 遁世譚 - 西行物語</li> <li>18. 遁世譚 - しのびね</li> <li>19. 遁世譚 - しぐれ</li> <li>20. 異類婚姻譚 - 玉水物語</li> <li>21. 異類婚姻譚 - 芦屋道満大内鑑</li> <li>22. 判官物 - 義経記</li> <li>23. 判官物 - 烏帽子折</li> <li>24. 判官物 - 御曹司島渡</li> <li>25. 判官物 - 義経千本桜</li> </ol>											
----- 系共通科目(国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国文学)(講義)(2)

- 26.異類合戦譚 - 鴉鷺物語  
27.小野小町伝説 - 謡曲  
28.小野小町伝説 - 室町物語  
29.レポート作成準備  
30.フィードバック

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（授業中に課す課題・コメントなど。20点）および期末レポート（80点）による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

授業で取り上げた作品や関連資料のうち、少しでも興味をもったものは自分で読んでみることを。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系3

科目ナンバリング		U-LET11 21402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 池田 巧			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説1(文法)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上が、現代中国語の文法について、言語史的な視点をまじえつつ、基礎知識を把握することを目標とする。											
【到達目標】											
この科目は現代中国語(普通話)の文法入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)現代中国語(普通話)の文法構造、(2)中古中国語文法から現代中国語文法への史的発展に関する基礎知識を習得することが期待される。あわせて古典中国語文法の基礎にも留意する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに：中国語とはどのような言語か</li> <li>2.現代中国語の表記法(簡体字と繁体字、ピンイン)</li> <li>3.普通話と方言(1)</li> <li>4.普通話と方言(2)</li> <li>5.文法の復習</li> <li>6.品詞分類、語構成(接頭辞、接尾辞、重ね型)</li> <li>7.句と文、否定、疑問</li> <li>8.名詞、代名詞、量詞</li> <li>9.動詞、形容詞、副詞(1)</li> <li>10.動詞、形容詞、副詞(2)</li> <li>11.時制とアスペクト</li> <li>12.補語と目的語(1)</li> <li>13.補語と目的語(2)</li> <li>14.ヴォイス(受身、使役、「把」構文)</li> <li>15.連動文と前置詞</li> </ol>											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点】											
授業内レポート(70%)、平常点(30%)。きちんと授業に出席し、積極的に発言すること。											
系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

池田 巧 『中国語のしくみ《新版》』(白水社) ISBN:978-4560086636

三宅登之 『中級中国語 読みとく文法』(白帝社) ISBN:978-4560085875

太田辰夫 『中国語歴史文法』(朋友書店) ISBN:978-4892811326 (1958年江南書院初版本の復刊)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する参考文献に関しては、あらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

(その他(オフィスアワー等))

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説I」および「中国語学概説II」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系4

科目ナンバリング		U-LET11 21404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 池田 巧			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説 2 (漢字史と中国語音韻史)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上が、漢字の歴史と中国語音韻史について、基礎知識を把握することを目標とする。											
【到達目標】											
この科目は漢字史および中国語音韻史の入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)漢字の構造、(2)中国語音韻史に関する基礎知識を習得することが期待される。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに、中国語研究史</li> <li>2. 現代中国語の音韻 (1) 普通話</li> <li>3. 現代中国語の音韻 (2) 方言の多様性</li> <li>4. 現代中国語の音韻 (3) 日本漢字音との関わり</li> <li>5. 中古中国語の音韻 (1) 韻書と反切</li> <li>6. 中古中国語の音韻 (2) 声調と声母</li> <li>7. 中古中国語の音韻 (3) 韻母</li> <li>8. 中古中国語の音韻 (4) 等韻図</li> <li>9. 古代中国語学 (小学) の基礎 (1) 漢字の形</li> <li>10. 古代中国語学 (小学) の基礎 (2) 漢字の義</li> <li>11. これまでの復習</li> <li>12. 周辺諸地域への漢字の伝播</li> <li>13. 日本語と中国語：接触の歴史 (日本から見た中国)</li> <li>14. 日本語と中国語：接触の歴史 (中国から見た日本)</li> <li>15. 総括討論</li> </ol>											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点】											
授業内レポート (70%)、平常点 (30%) きちんと授業に出席し、積極的に発言すること。											
----- 系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

頼惟勤 『中国古典を読むために 中国語学史講義』(大修館書店) ISBN:978-4469231243

Jerry Norman 『Chinese』(Cambridge University Press) ISBN:978-0521296533

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する参考文献に関しては、次回までにあらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説I」および「中国語学概説II」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系5

科目ナンバリング		U-LET11 21406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論(詩詞)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、中国古典文学の代表的な作品・作家について、特に唐宋の韻文作品を中心に包括的な知識を身につけることにある。国語科教職科目でもあるため、高校の「漢文」教科書に収録されている作品を多くあつかうが、むしろそれを「外国語文学」もしくは「世界文学」として相対化する視点を導入して考察を深めたい。</p>											
【到達目標】											
<p>韻文を主とした中国の古典詩詞に関する基本事項を理解したうえで、関連する研究成果を読み込み、課題(レポート)に対して自主的にとりくむ能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のとおり講義を進める。ただし講義の進捗度、受講者の理解度に応じて、順序や回数を変更することがある。</p> <p>第1回 中国古典詩詞を読む前に          第2回 唐詩の基礎知識          第3回 「初唐四傑」から「沈宋」へ          第4回 孟浩然「春暁」を読む          第5回 「謫仙人」李白の想像力          第6回 「詩聖」杜甫の革新性          第7回 韓愈と「以文為詩」          第8回 中唐の流行詩人白居易          第9回 李商隱の恋愛詩          第10回 新たな韻文様式、詞の勃興          第11回 欧陽脩と梅堯臣          第12回 蘇軾と黄庭堅          第13回 北宋詞の展開          第14回 動乱を生き抜いた女性詞人李清照          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小レポート(50%)および期末レポート(50%)の成績による。											
-----系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

**[教科書]**

ハンドアウトを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

川合康三 『新編中国名詩選（全三冊）』（岩波文庫、2015年）ISBN:ISBN:978-4-00-370001-3

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各单元ごとに「参考文献」を告知するので、それによって関連図書・論文を適宜読んでください。

**(その他（オフィスアワー等）)**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系6

科目ナンバリング		U-LET11 21408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論(小説)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、中国古典文学の代表的な作品・作家について、特に六朝・唐代の小説を中心に包括的な知識を身につけることにある。国語科教職科目でもあるため、高校の「漢文」教科書に収録されている作品を多くあつかうが、むしろそれを「外国語文学」もしくは「世界文学」として相対化する視点を導入して考察を深めたい。</p>											
【到達目標】											
<p>六朝・唐代の小説を主とした中国の古典文学に関する基本事項を理解したうえで、関連する研究成果を読み込み、課題(レポート)に対して自主的にとりくむ能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のとおり講義を進める。ただし講義の進捗度、受講者の理解度に応じて、順序や回数を変更することがある。</p> <p>第1回 中国の「小説」とその起源          第2回 神話と史伝の小説的叙事          第3回 魏晋南北朝の志怪：『搜神記』          第4回 魏晋南北朝の志怪：冥界訪問譚          第5回 魏晋南北朝の志怪：変身譚          第6回 「志人」小説：名士と『世説新語』          第7回 志怪から伝奇へ          第8回 神女との恋と『遊仙窟』          第9回 才子佳人の恋物語          第10回 「赤い縄」と縁結びの神さま          第11回 唐代伝奇とその翻案          第12回 『三国志』物語の展開          第13回 『水滸伝』と武俠の世界          第14回 『西遊記』の名場面：京劇鑑賞          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小レポート(50%)および期末レポート(50%)の成績による。											
----- 系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

**[教科書]**

ハンドアウトを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

竹田晃 『中国小説史入門』 (岩波書店、2002年) ISBN:4-00-026035-9

**[授業外学修(予習・復習)等]**

各单元ごとに「参考文献」を告知するので、それによって関連図書・論文を適宜読んでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系7

科目ナンバリング		U-LET12 11502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ( )									
【授業の概要・目的】											
「気」や「理」などの中国哲学の基本概念を講義し、中国哲学ならびに中国文化への理解を深める。											
【到達目標】											
中国哲学における「気」、「性」、「道」、「理」などの基本的諸概念の持つ意味を理解することにより、中国文化のみならず、人類の文化全体を考えるための基礎的な知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
1 中国哲学とは何か 2 中国における「学問」の意味について 3 「気」について 一 気思想概観 4 「気」について 二 藝術作品に見る気 5 「気」について 三 画像石にみる気の死生観 6 「気」について 四 太極図 7 「理」について 一 理思想概観 8 「理」について 二 朱子学における理 9 「性」について 一 孟子と荀子の性説 10 「性」について 二 朱子の性説 11 「道」について 一 儒家の考える道 12 「道」について 二 道家の考える道 13 「無」について 14 ふたたび「中国哲学とは何か」 15 試験及びフィードバック(詳細は授業時に解説)											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末試験による(100パーセント)											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
漢文資料などは授業時に適宜コピーして配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
島田虔次『朱子学と陽明学(岩波新書)』(岩波書店) ISBN:4004120284  
その他は授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

ひろく中国の古典に親しんでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系8

科目ナンバリング		U-LET12 11504 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ( )									
【授業の概要・目的】											
中国の目録学について概要を示すことから始めて、中国哲学史上の重要な書物について、経部と子部の書物を中心にそれぞれの内容について解説し、その書物が学問全体においてもつ位置についての知識を深める。											
【到達目標】											
目録学の概要を学ぶことにより、目録学が持つ「学術史」としての意味、目録学の存在意義を理解するとともに、中国の経部書（儒教の経書に関わる書物群）、子部書（諸子百家と、いわゆる技術書とされるもの）といった、中国哲学が主に扱う分野の書物について、それぞれの書物がどういう経緯で作られ、いったい何が書かれているか、さらには、学術全体の中でその書物がどのような位置にあるのかなどを知り、中国学を学ぶ上で基礎的な知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
1 目録学の意義について 2 目録の歴史 一 目録学における焚書の意義 3 目録の歴史 二 漢書藝文志の構成について 4 目録の歴史 三 六朝期から『四庫全書総目提要』へ 5 子部書の分類について 一 6 子部書の分類について 二 7 子部書の分類について 三 8 経部書の分類について 9 易 10 書 11 詩 12 礼 13 春秋 14 四書、小学書 15 フィードバック（詳細は授業時に解説する）											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末試験（100パーセント）											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
資料はプリントして配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
野間文史『五経入門 中国古典の世界(研文選書)』(研文出版) ISBN:4876363749  
その他は授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

ひろく中国の古典に親しんでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系9

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)									
【授業の概要・目的】											
<p>ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ聖典に触れ、その歴史をたどり、古代インドの宗教と思想の展開と、古代インド文化・社会の特徴を学ぶ。原典の日本語訳を精読し、そこから思想や社会背景について何かを読み取るうとする試みを、毎回の授業で一人一人が行う。古代インドの宗教や歴史について詳しく解説を行うが、それを広く古代インドを超えて世界を理解する視点として生かすことを試みる。授業の中で、解説およびディスカッションの時間の他に、自分の考えをまとめる時間を取り、短いレポートとして毎回提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>ヴェーダ文献およびその思想、社会的背景についての知識を得る。古代の思想、古代の社会を研究する上での、様々な視点あるいは問題点について自分なりの理解を得る。古代インドに見られる様々な思想的、社会的事象を普遍的に捉え、古代インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 古代インドの歴史と言語          第2回 インド・アリア人とヴェーダの宗教          第3回 リグヴェーダ(1)：自然神への崇拜          第4回 リグヴェーダ(2)：英雄神インドラ          第5回 リグヴェーダ(3)：哲学思想の起こりと成立・発展史の問題点          第6回 アタルヴァヴェーダ：呪術と哲学的思索          第7回 ヴェーダ祭式の発展          第8回 ヤジュルヴェーダ(1)：儀礼行為の確立と意義説明          第9回 ヤジュルヴェーダ(2)：マントラの多義化          第10回 祭式説明(ブラーフマナ)の発展          第11回 アーラニヤカ「森林書」とは何か          第12回 ウパニシャッドの成立          第13回 ウパニシャッドの発展          第14回 ダルマ・スートラ          第15回 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

毎回授業の際に書く短いレポートを、総合して評価する。

**[教科書]**

必要な資料は授業中に配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習は必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

**(その他(オフィスアワー等))**

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系10

科目ナンバリング		U-LET13 11604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット文献史（叙事詩以降）									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』（「偉大なるバラタ族の物語」）と『ラーマヤナ』（「ラーマの勲」）以降に作られたサンスクリット文献について、分野別にその歴史的背景と内容を多角的な視点をもって概説する。これを通じて、インド古代・中世の思想、文化、社会の基本的枠組みを学び、理解することを授業の目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>インド古代・中世の思想、文化、社会を形づくる基本的枠組みを学び、理解することにより、関心ある主題に関して自学する能力が育まれることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 サンスクリット文献全般と授業で扱う分野の概説          第2回 二大叙事詩の内容と特徴          第3回 二大叙事詩の成立過程          第4回 叙事詩成立の歴史的背景          第5回 ダルマと人生の四大目的（法、実利、愛、解脱）          第6回 法典文献と政治学文献          第7回 ヒンドゥー教の形成：一神教信仰の成立とヒンドゥー神話          第8回 古伝承文献（プラーナ）の内容概観・形成史          第9回 プラーナの世界観・時間観          第10回 インドにおける説話：動物寓話と大説話          第11回 サンスクリット美文学（カーヴィヤ）のジャンル・内容概観          第12回 サンスクリット詩の諸特徴          第13回 演劇と美的体験の理論          第14回 詩学の発展、カーヴィヤの形成期から成熟期          第15回 全体の総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（70％）と期末レポート（30％）により評価する。											
【教科書】											
<p>教科書は特に使用しない。参照すべき資料は、授業内容に合わせて適宜紹介され、PandAにアップロードされる。叙事詩と説話、カーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代」（山崎元一・小西正捷編）山川出版社（2007年）の「第9章：文学史の流れ」を主たる教材とする。</p>											
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する  
各ジャンルごとの参考文献リストをPandAにアップロードする。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習は必要ない。授業中に配布する資料などを使って、講義内容の復習をすること。また、平常点評価と授業の双方向性を保つために、ほぼ毎回授業のポイントや質問などをPandAの課題にアップロードしてもらう(要半時間から1時間程度)。

**(その他(オフィスアワー等))**

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)、インド哲学史(前期と後期)も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系11

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語	
題目		History of Indian Philosophy A										
【授業の概要・目的】												
<p>This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義では、インドの哲学的思想において最も影響力をもっていた哲学諸派を概観します。授業では、それぞれの学派が伝承してきた主な原典を参照しつつ、それぞれの教義について見ていきます。それによって、それらの諸伝統を形成している思想の歴史的発展と、諸伝統の間で交わされた主要な議論について考えていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA（ティーチング・アシスト）による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>												
【到達目標】												
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought.          2) Students will become familiar with the historical development of these themes.          3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions.          4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions.          5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。          2) これらのテーマの歴史的発展を知る。          3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や思想的立場を学ぶ。          4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。          5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p> <p>Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.</p>												
系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く												

## 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.

Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.

Week 7. Vaishesika categorization. Prasastapada.

Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.

Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.

Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.

Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

第1週：序章。インド「哲学」は、インド思想における「ダルシャナ」や「タルカ」といった伝統と同じか？また、どのようにしてそれを学ぶのか？あるいは、他の伝統と比較することは可能なのか？

第2週：インド思想の資料としてのヴェーダとウパニシャッドについて。「無謬」についての伝統的な議論について。全知者としての創造者に対する反論。

第3週：文法学者と哲学の言語について。パタンジャリの『大注解』の文体と内容。バルトリハリの『ヴァーキャパディーヤ』と言語的一元論について。

第4週：アビダルマ思想および仏教の思想に見られる概念的な語彙について。

第5週：ヨーガーチャラ（瑜伽行）派の観念論（唯心論）。現象学のおよび存在論的な「空」の思想について。

第6週：ニヤーヤ学派の知識論と実在論。彼らの考える「知識による解脱」とは。

第7週：ヴァイシェシカ学派のカテゴリー論について。プラシャスタパーダによる著作を中心に。

第8週：サーンキヤ学派の二元論について。『サーンキヤ・カーリカー』と『ユクティ・ディーピカー』を中心に。

第9週：精神的なプロセスについてのヨーガ学派の考え方について。『ヨーガ・スートラ』とその注釈書を中心に。

第10週：ミーマーンサー学派の聖典解釈学について。クマーリラとプラバーカラの思想について。

第11週：アドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の不二一元論）について。シャンカラとその弟子たちの思想的伝統について。

第12週：ヴィシシュタ・アドヴァイタ（ヴェーダント学派の限定（制限）不二一元論）とドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の二元論）について。有神論的な解釈について。ラーマヌジャとマドゥヴァの思想。

第13週：シャイヴァ・シッターンタ（シヴァ教の伝統）と『イーシュヴァラ・プラティヤビジュニ



系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

ャー』について。シヴァ教の二元論と一元論。

第14週：ナヴィヤ・ニヤーヤ（新ニヤーヤ学派）について。『タットヴァ・チンターマニ』の内容と、その思想が他のすべての諸学派へ与えた影響について。

第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdeśa)』 ( Oxford University Press ) ( pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009 )

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 ( Publications of the De Nobili Research Library ) ( Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013. )

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 ( : State University of New York Press ) ( India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988 )

Materials distributed in class.

【参考書等】

( 参考書 )

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

( その他（オフィスアワー等） )

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系12

科目ナンバリング		U-LET13 11704 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		History of Indian Philosophy B									
【授業の概要・目的】											
<p>This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義は、インドの哲学的伝統において最も影響力のあったテーマや、諸伝統の間で長年議論されてきた諸問題について概観します。授業では、原典の資料を紹介しながらそれぞれのテーマについて見ていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA（ティーチング・アシスト）による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought.          2) Students will become familiar with the historical development of these themes.          3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions.          4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions.          5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。          2) これらのテーマの歴史的発展を知る。          3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や立場を学ぶ。          4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。          5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>											
【授業計画と内容】											
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.											
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?											
Week 3. Perception											
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?											
Week 5. Inference. How can vyapti be established?											
Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?											
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

## 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 7. Analogy. Is analogy reliable?

Week 8. Other means of knowledge.

Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.

Week 10. Theories of Causation.

Week 11. Transformatio, evolution, agency and action.

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

- 第1週：序章。インド思想における重要なテーマ、形而上学、存在論、認識論、宇宙論について。  
第2週：プラマーナ（認識論）について。正しく知るための道具とは何か？それはいくつあるのか？  
第3週：正しい認識方法1。直接知覚について。  
第4週：誤謬と疑いについて。認識における誤謬（誤り）とは何か？疑いにはどのような種類があるのか？  
第5週：正しい認識方法2。推論について。推論における遍充関係はどのようにして確立されるのか？  
第6週：正しい認識方法3。ことばによる認識について。ことばと意味の関係とは。ことばの指し示す対象とは何か？  
第7週：正しい認識方法4。類推について。類推による認識は、正しい認識根拠として信頼できるのか？  
第8週：その他の知識の手段について。  
第9週：インド思想において論争される存在論について。存在は要素なのか、カテゴリーなのか、または現象なのか？物質と、性質、そしてそれらを結びつける諸関係について。  
第10週：因果関係に関する理論。  
第11週：物事の変様と展開について。行為の主体と行為について。  
第12週：自己の本質と性質について。  
第13週：非存在について。  
第14週：インド思想における時間の理論について。  
第15週：まとめ。

### [履修要件]

特になし

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

**[成績評価の方法・観点]**

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

**[教科書]**

Details provided in class.

**[参考書等]**

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005. )

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vignahavyavartani. 』 ( Oxford University Press ) ( 2010 )

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 ( Indian Council of Philosophical Research ) ( New Delhi 1996 )

Details provided in class.

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系13

科目ナンバリング		U-LET14 11802 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。											
【到達目標】											
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
<p>第1回 序論：仏教と仏教学</p> <p>第2回 仏教誕生の背景</p> <p>第3回 仏陀の生涯</p> <p>第4回 初期仏教：基本的な教説</p> <p>第5回 初期仏教：教説の特徴</p> <p>第6回 初期仏教：教団の発展</p> <p>第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂</p> <p>第8回 部派仏教：阿含（アーガマ）と論（アビダルマ）</p> <p>第9回 説一切有部の思想：概説</p> <p>第10回 説一切有部の思想：その世界観</p> <p>第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立</p> <p>第12回 説一切有部の思想：五位七十五法</p> <p>第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈</p> <p>第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の十回程度の課題（70％）と筆記試験（30％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習の必要がある時は、授業中に指示する。  
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系14

科目ナンバリング		U-LET14 11804 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗経典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。											
【到達目標】											
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
<p>第1回 経量部の思想：概説</p> <p>第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理</p> <p>第3回 大乗運動と大乗経典：概説</p> <p>第4回 大乗運動と大乗経典：空性と慈悲</p> <p>第5回 中観学派の思想：概説</p> <p>第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空</p> <p>第7回 唯識学派の思想：概説とアールヤ識</p> <p>第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解</p> <p>第9回 仏教論理学派</p> <p>第10回 中期中観派</p> <p>第11回 後期インド仏教と密教</p> <p>第12回 前伝期のチベット仏教</p> <p>第13回 後伝期の仏教諸派の思想1（カダム派、サキャ派、カギユ派）</p> <p>第14回 後伝期の仏教諸派の思想2（ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派）、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業期間中の十回程度な課題（70％）と筆記試験（30％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習の必要がある時は、授業中に指示する。  
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系15

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芭蕉研究									
【授業の概要・目的】											
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期は、まず、近世前期の俳諧史・書物史の展開について、具体的な作品・資料に基づきつつ講義する。その上で、芭蕉作品をいくつか取り上げて精読する。作品の生成過程を吟味しつつ、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期は、近世文学研究を行う上で重要な資料であり、芭蕉の作品とも分かちがたく結びつく書簡資料を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。内容に関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>近世前期から中期にかけての俳諧史と、諸派の俳諧の特性を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。芭蕉作品の生成過程の諸相を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 俳諧史(1) 俳諧之連歌</li> <li>3. 俳諧史(2) 貞門俳諧</li> <li>4. 俳諧史(3) 談林俳諧</li> <li>5. 俳諧史(4) 貞享期の俳諧</li> <li>6. 俳諧史(5) 元禄俳諧</li> <li>7. 俳諧史(6) 俳書の変遷</li> <li>8. 芭蕉概説</li> <li>9. 『笈の小文』精読(1) 伊賀上野</li> <li>10. 『笈の小文』精読(2) 伊勢</li> <li>11. 『笈の小文』精読(3) 吉野</li> <li>12. 「幻住庵記」精読(1) 冒頭</li> <li>13. 「幻住庵記」精読(2) 眺望と庵住生活</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

14. 「幻住庵記」精読(3) 末尾
15. 「幻住庵記」精読(4) 俳文生成の諸問題・前期のまとめ
16. 書簡資料概説
17. 往来物読解(1) 往信
18. 往来物読解(2) 返信
19. 貞門俳人の書簡
20. 談林俳人の書簡
21. 芭蕉の俳事を支えた人々：智月宛芭蕉書簡(1) 前半の精読
22. 芭蕉の俳事を支えた人々：智月宛芭蕉書簡(2) 後半の精読
23. 門人との対話と句作：荊口宛芭蕉書簡(1) 前半の精読
24. 門人との対話と句作：荊口宛芭蕉書簡(2) 後半の精読
25. 門人との対話と句作：荊口宛芭蕉書簡(3) 芭蕉作品の推敲の諸相
26. 新風の探求：去来宛芭蕉書簡(1) 前半の精読
27. 新風の探求：去来宛芭蕉書簡(2) 後半の精読
28. 新風の探求：去来宛芭蕉書簡(3) 蕉風三変
29. 総括
30. フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(30%)、小テスト(20%)、年度末のレポート(50%)による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、小テストを課題提出に変更する可能性がある。

### 【教科書】

使用しない  
プリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)  
鈴木勝忠『俳諧史要』(明治書院、1973)  
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

版本・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、前時代・同時代の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

国語学国文学(特殊講義)(3)へ続く

国語学国文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系16

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代日本語表記の史的変遷									
【授業の概要・目的】											
<p>日本語の歴史を、「古代語」（奈良時代以前から鎌倉時代まで）と「近代語」（室町時代から現代まで）に二分する捉え方があります。この授業では、前者すなわち古代語における文字・表記の歴史を概説します。</p> <p>この時代の日本語表記については、大きく言えば次の3点が主なトピックと言えます。</p> <p>(1) 漢字による日本語表記の発展 (2) 仮名の発展 (3) 仮名遣いの始まり</p> <p>いま圧倒的的主流となっている(そしてこのシラバスでも採用している)「漢字平仮名交り」という表記方法は、日本語の歴史を通じてずっと主流であったわけでは決してありません。一時代に複数の表記様式が並存し、文章の目的や対象など種々の要因に応じて、その内の一つが選択されるという在り方が長く続きました。</p> <p>また興味深いことに、「どのような表記様式を用いるか(=表記体)」と「どのような文章を書くか(=文体)」とに関連性のあったことが知られています。よって、日本語の歴史を探求しようとする場合には、表記にも着目する必要があるのです。</p> <p>表記は「どのような文字・符号を用いるか(形態)」と「それらの文字・符号をどのように用いるか(運用)」という2つの観点から捉えることができますが、本講義ではこの両観点から、古代日本語がどのように表記されてきたかを通観します。また、それぞれのトピックについて、先行研究等をもとに、より専門的な問題や知見を紹介します。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本語の表記法の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような文字・符号を用いるか。 (2) それらの文字・符号をどのように用いるか。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要、総説 第2回：漢字：概説 第3-4回：漢字：日本への導入と展開 第5回：上代の文字資料の例 第6回：古事記の用字法 第7-8回：万葉集の用字法 第9回：奈良時代～平安初期の漢字政策 第10回：仮名：概説</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

第11-12回：片仮名と訓点資料  
第13回：平仮名(1)  
第14回：期末試験1  
第15回：フィードバック

\* \* \*

第16回：平仮名(2)  
第17-20回：変体漢文  
第21回：東アジアの漢字利用  
第22-23回：いろは歌と五十音図  
第24-26回：仮名遣い  
第27回：漢字仮名交じり文  
第28回：近代語への展開  
第29回：定期試験2  
第30回：フィードバック

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

2度の期末試験による(各50%)。

**【教科書】**

使用しない

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

授業中に指示する参考文献を読むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系17

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『文選』の文章を読む(司馬遷による書簡「報任少卿書」)									
[授業の概要・目的]											
<p>漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることを最大の目的とする。最初は漢文とその読み方について概説をし、またテキストとなる『文選』について紹介する(主として前期)。</p> <p>その上で、実際の『文選』収録の文章として、司馬遷「報任少卿書(任少卿に報ずる書=書簡)」を精読する(主として前期後半~後期)。司馬遷は『史記』の著者として、名前を知っている人も多いであろう。また『文選』に附された唐の李善による注釈もあわせて読むことで、漢文読解における注釈の意義について考えてもらう。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、分野を問わず様々な興味関心から、多くの学生の参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。</li> <li>2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。</li> <li>3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。</li> <li>4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。</li> <li>5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>最初のうちは講義形式で進め、時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう。</p> <p>司馬遷「報任少卿書」を読む段階に入ってから、毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2・3 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳</li> <li>4・5 漢文の読み方：典故について</li> <li>6・7 漢文の読み方：注釈について</li> <li>8 『文選』について：成立と受容、李善注と五臣注</li> <li>9~30 司馬遷「報任少卿書」の読解と討議 フィードバックの方法は授業時に指示する。</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

**【教科書】**

授業中に指示する  
テキストはコピーして配布する。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系18

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花と久生十蘭									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花と久生十蘭は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、泉鏡花や久生十蘭の作品のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。また、随時関連資料の紹介や考察も行う。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。PandAを使うので教室にPCを持参すること。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花・久生十蘭に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)</p> <p>第2回 鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車</p> <p>第3回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉と飛天夜叉</p> <p>第4回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家と前の世</p> <p>第5回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔</p> <p>第6回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔</p> <p>第7回 久生十蘭の生涯と作品。泉鏡花から久生十蘭へ</p> <p>第8回 久生十蘭「黄泉から」の材源</p> <p>第9回 「黄泉から」の構想</p> <p>第10回 久生十蘭「生霊」の構想</p> <p>第11回 「湖畔」の時代背景</p> <p>第12回 「湖畔」の材源</p> <p>第13回 「湖畔」のヴァリエーション</p> <p>第14回 一人称小説としての「湖畔」</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>なお、随時関連資料の紹介や考察も行う。また、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



国語学国文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

質問・意見の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

**【教科書】**

PandAのリソースに資料や論文、講義録画等を置く。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

教員の講義・論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、PandAに提出する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系19

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花と久生十蘭									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花と久生十蘭は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、泉鏡花・久生十蘭をめぐって、書誌や他作家との関係、代表作のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。PandAを使うので教室にPCを持参すること。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花や久生十蘭に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と文学、単行本書誌について(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)</p> <p>第2回 泉鏡花単行本書誌の諸問題 概要</p> <p>第3回 泉鏡花単行本書誌の諸問題 特論</p> <p>第4回 泉鏡花と太宰治</p> <p>第5回 久生十蘭の生涯と文学。「母子像」の背景</p> <p>第6回 「母子像」の世界</p> <p>第7回 久生十蘭「新西遊記」と『西藏旅行記』</p> <p>第8回 「新西遊記」と平凡社『大百科事典』</p> <p>第9回 「新西遊記」の独自性</p> <p>第10回 「新西遊記」草稿と関連資料</p> <p>第11回 久生十蘭「重吉漂流記」の典拠と主題</p> <p>第12回 久生十蘭「藤九郎の島」の典拠と主題</p> <p>第13回 久生十蘭「ボニン島物語」の典拠</p> <p>第14回 「ボニン島物語」の主題</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

質問・意見等の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

### 【教科書】

PandAのリソースに資料や論文、講義録画等を置く。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・先行論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見等をPandAに提出する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系20

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々と表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 古事記概説</li> <li>2 日本書紀概説</li> <li>3 万葉集概説</li> <li>4 調査研究法</li> <li>5 古事記歌謡の特質</li> <li>6 日本書紀歌謡の特質</li> <li>7 「古代歌謡」について</li> <li>8 実例演習 倭建尊命歌謡</li> <li>9 実例演習 素盞烏尊歌謡</li> <li>10 実例演習 風土記歌謡と東歌</li> <li>11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革</li> <li>12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題

14 歌経標式の歌体理論について

15 日本語学・日本文学Iのまとめ

8回から10回は受講生に課題を与えるのでこれまでの議論を踏まえて実際に演習形式で研究発表をしてもらいます。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

### 【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)(レポート作成に使用するので購入しておくこと)  
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)  
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫本です。)

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

### (その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系21

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々とを表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 古事記概説(研究史)</li> <li>2 日本書紀概説(研究史)</li> <li>3 万葉集概説(研究史)</li> <li>4 調査研究法(「初期万葉」と「記紀歌謡」その定義の在り方)</li> <li>5 古事記歌謡の特質</li> <li>6 日本書紀歌謡の特質</li> <li>7 「古代歌謡」について(「歌の共有」がもたらすもの)</li> <li>8 実例演習 担当者による演習</li> <li>9 実例演習 担当者による演習</li> <li>10 実例演習 担当者による演習</li> <li>11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革</li> <li>12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

- 13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題
- 14 歌経標式の歌体理論と万葉集内部にみる「歌病歌」の分布
- 15 まとめ

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

### 【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)  
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)  
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫です。)

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

### (その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系22

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 長谷川 千尋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北野天満宮と和歌									
【授業の概要・目的】											
北野天満宮には、江戸時代前期から後期を通じて天皇・上皇によって奉納された聖廟法楽和歌の原本が伝わる。近年の研究で、和歌三神とされる住吉、玉津島、柿本の三社に奉納された同時期の和歌の実態が明らかにされつつあるが、これらと北野天満宮の聖廟法楽和歌との関係、和歌三神の位置づけについて考察をめぐらせ、禁裡聖廟奉納和歌の内容についても詳しく紹介する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法楽和歌の歴史や古今伝授に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。</li> <li>・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北野天満宮縁起と天神信仰</li> <li>2. 聖廟法楽和歌の歴史</li> <li>3. 和歌三神の形成</li> <li>4. 和歌三神の形成（続）</li> <li>5. 和歌三神の変容</li> <li>6. 禁裡における古今伝授</li> <li>7. 古今伝授と奉納和歌（住吉、玉津島）</li> <li>8. 古今伝授と奉納和歌（聖廟）</li> <li>9. 禁裡聖廟奉納和歌の概要と奉納様式</li> <li>10. 禁裡聖廟奉納和歌講読（寛文）</li> <li>11. 禁裡聖廟奉納和歌講読（天和）</li> <li>12. 禁裡聖廟奉納和歌講読（延享）</li> <li>13. 禁裡聖廟奉納和歌講読（宝暦）</li> <li>14. 禁裡聖廟奉納和歌講読（明和）</li> <li>15. 禁裡聖廟奉納和歌講読（寛政・天保）</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポートに拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の視点で課題を設定し、実証的に結論を導き出しているものを高く評価する。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



国語学国文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

レポート課題のテーマの選定、調査、論述が中心となる

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系23

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 長谷川 千尋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北野天満宮と連歌									
【授業の概要・目的】											
北野天神は、南北朝時代頃から、連歌の神として崇敬されるようになり、室町時代には幕府の管轄による北野連歌会所や奉行職が設けられた。本講義では、天神信仰にまつわる連歌の歴史を、現存する連歌作品や北野天満宮所蔵資料を交えて、立体的に説き明かす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・連歌史に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。</li> <li>・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 連歌の神の形成(1)</li> <li>3. 連歌の神の形成(2)</li> <li>4. 連歌の神の形成(3)</li> <li>5. 北野連歌会所と奉行職(1)</li> <li>6. 北野連歌会所と奉行職(2)</li> <li>7. 北野連歌会所と奉行職(3)</li> <li>8. 北野社法楽万句</li> <li>9. 禁裡聖廟法楽連歌</li> <li>10. 北野社家の連歌</li> <li>11. 北野天満宮所蔵の連歌資料</li> <li>12. 北野天満宮所蔵の連歌資料(続)</li> <li>13. 近世の奉納万句連歌</li> <li>14. 近世の奉納万句連歌(続)</li> <li>学期末試験</li> <li>15. フィードバック</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験(筆記)に拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

定期試験の課題に向けての事前準備が中心となる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系24

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		成城大学 文芸学部 教授 大谷 節子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		能の意味論									
【授業の概要・目的】											
<p>能の作者の中で世阿弥と禅竹は能楽論を書き記したという点においても、特異な存在である。世阿弥はその能楽論において自らの作品について多くを述べるが、禅竹は述べるところがない。そのため世阿弥についてはその作を確定できるものが数多くあるが、禅竹は同様ではない。しかし、難解とされる禅竹の作品には表面の意味とは別の意味が仕組まれており、それは世阿弥の作能法に学んだものである。世阿弥と禅竹の作品に織り込まれた意味の読解作業を通して、能とは何かを考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>中世文学研究・能楽研究に対する基本的研究方法の習得を目的とする。 能は中世以前の和漢の文学、経典を摂取して形成され、中世以後近代に至るまで文学、美術工芸にとどまらず日本文化全体に少なからぬ影響を与えている。能への理解を深めることで、中世以後の日本文化研究に必要な基礎知識を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 能楽研究史            第2回 世阿弥の作能法(1)脇の能            第3回 世阿弥の作能法(2)軍体の能            第4回 世阿弥の作能法(3)女体の能            第5回 世阿弥の作能法(4)物狂能            第6回 世阿弥の作能法(5)碎動風鬼            第7回 禅竹の作能法(1)祝言の能            第8回 禅竹の作能法(2)幽玄体の能1            第9回 禅竹の作能法(3)幽玄体の能2            第10回 禅竹の作能法(4)雑体の能1            第11回 禅竹の作能法(5)雑体の能2            第12回 禅竹の作能法(6)鬼神の能            第13回 禅竹の作能法(7)龍神の能            第14回 禅竹の作能法(8)間狂言            第15回 能楽研究展望</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

授業時のコメント等（20％）レポート（80％）

**【教科書】**

使用しない  
適宜、授業時に講義資料を配付する。

**【参考書等】**

（参考書）  
大谷節子 『世阿弥の中世』（岩波書店、2007年）

**【授業外学修（予習・復習）等】**

・事前に一度は能楽堂で能と狂言を観ておくことを希望するが、必要条件ではない。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系25

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		鈴鹿本『今昔物語集』の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学が所蔵する鈴鹿本『今昔物語集』（国宝）をとりあげ、演習形式で研究を行う。説話、漢字片仮名交り文、和漢混淆文についての基礎知識を獲得し、資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用するための方法・視点を学ぶことを目的とする。授業では、調べ、考える楽しさを重視する。</p>											
【到達目標】											
<p>説話、漢字片仮名交り文、和漢混淆文についての基礎知識を獲得する。様々な工具書を用いて資料を読解し、そこに現れた日本語表現について考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本演習では、京都大学が所蔵する鈴鹿本『今昔物語集』（国宝）をとりあげ、その研究を行う。具体的には、資料を一文字ずつ読みながら、読解・注釈を行い、その過程で、出典・表記・音韻・文法・語彙といった種々の方面から検討を加える。説話、日本語史、古辞書に興味がある人には面白いものとなる。</p> <p>年度はじめ数回をイントロダクションにあてる。その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分から問題点を見つけ出し、発表する。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回イントロダクション、担当決め 第3回～第29回発表と議論 第30回まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**[教科書]**

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000125>

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		歌合を読む									
【授業の概要・目的】											
新古今時代の歌壇における最大の催しであった『千五百番歌合』より、藤原俊成が加判した春三（百七十一番～）を精読する。歌合の和歌を判詞とともに読むことにより、和歌を正確に解釈するとともに、当時の和歌観を踏まえて鑑賞することをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本歌や用例の調査に基づいて、和歌を正確に解釈する方法を習得する。</li> <li>・歌合の判詞をもとに、当時の和歌観に即した和歌の評価ができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 授業の目的や進め方を説明し、受講者の担当部分と発表順を決める。											
第2回 百七十一番を例に、調べ方やレジユメの作り方について解説する。											
第3回～第29回 作品精読 受講者の発表により作品を読み進める。発表者は担当した番の和歌の翻字、本歌の指摘、語釈、現代語訳などを行う。さらに判詞を踏まえて、それぞれの和歌を鑑賞・評価する。それらの内容をレジユメにまとめ、発表する。 発表者以外の受講者もあらかじめ熟読してから授業に臨み、積極的に質問や意見を述べるのが望まれる。 各回の講読範囲はおおむね下記のように予定している（受講者の人数によって調整する）。											
第3回 百七十二番											
第4回 百七十三番											
第5回 百七十四番											
第6回 百七十五番											
第7回 百七十六番											
第8回 百七十七番											
第9回 百七十八番											
第10回 百七十九番											
第11回 百八十番											
第12回 百八十一番											
第13回 百八十二番											
第14回 百八十三番											
第15回 百八十四番											
第16回 百八十五番											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											



国語学国文学(演習)(2)

第17回 百八十六番  
第18回 百八十七番  
第19回 百八十八番  
第20回 百八十九番  
第21回 百九十番  
第22回 百九十一番  
第23回 百九十二番  
第24回 百九十三番  
第25回 百九十四番  
第26回 百九十五番  
第27回 百九十六番  
第28回 百九十七番  
第29回 百九十八番

第30回 フィードバック

**[履修要件]**

くずし字の文献を扱うため、「国語学国文学講読」を履修済み又は受講中であることが望ましい(必須とはしない)。

**[成績評価の方法・観点]**

平常点(発表および授業中の発言等)による。授業時間内に発表できなかった者は、レポートで代替する。発表・レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
渡部 泰明 『和歌とは何か』(岩波新書) ISBN:9784004311980

**[授業外学修(予習・復習)等]**

自分の担当以外の箇所についても、十分に下読みしてから授業に臨むこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『俳諧類船集』研究									
[授業の概要・目的]											
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 『俳諧類船集』概説</li> <li>3. 和装本の扱い方について</li> <li>4. 受講者による発表と討議 (1) 「腹立」条</li> <li>5. 受講者による発表と討議 (2) 「腹巻」条</li> <li>6. 受講者による発表と討議 (3) 「腹帯」条</li> <li>7. 受講者による発表と討議 (4) 「腹当」条</li> <li>8. 受講者による発表と討議 (5) 「母」条</li> <li>9. 受講者による発表と討議 (6) 「はらむ」条</li> <li>10. 受講者による発表と討議 (7) 「鼻」条・前半</li> <li>11. 受講者による発表と討議 (8) 「鼻」条・後半</li> <li>12. 受講者による発表と討議 (9) 「歯」条</li> <li>13. 受講者による発表と討議 (10) 「針」条・前半</li> <li>14. 受講者による発表と討議 (11) 「針」条・後半</li> </ol>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

- 15.受講者による発表と討議 (12) 「包丁」条
- 16.受講者による発表と討議 (13) 「鋏」条・前半
- 17.受講者による発表と討議 (14) 「鋏」条・後半
- 18.受講者による発表と討議 (15) 「秤」条
- 19.受講者による発表と討議 (16) 「鉢」条・前半
- 20.受講者による発表と討議 (17) 「鉢」条・後半
- 21.受講者による発表と討議 (18) 「箸」条
- 22.受講者による発表と討議 (19) 「筥」条・前半
- 23.受講者による発表と討議 (20) 「筥」条・後半
- 24.受講者による発表と討議 (21) 「箱」条・前半
- 25.受講者による発表と討議 (22) 「箱」条・後半
- 26.受講者による発表と討議 (23) 「袴」条・前半
- 27.受講者による発表と討議 (24) 「袴」条・後半
- 28.受講者による発表と討議 (25) 「脛巾」条
- 29.総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、予定を変更する場合がある。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

### 【教科書】

使用しない  
プリントを配付する。

### 【参考書等】

(参考書)

頼原退蔵『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012  
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		平安時代語の分析：語義の分類・記述									
【授業の概要・目的】											
<p>実際に論文を書いてみることで、日本語学の研究方法を実践的に習得することを目的とします。前期は課題論文（平安時代語の特定の語を取り上げ、語義の分類・記述を行う）、後期は自由論文を作成します。</p> <p>授業は以下のように進行します。</p> <p>(1) 各受講者の発表に先立ち、論文の書き方のポイントや、用例調査の方法、課題論文の前提になる知識（平安時代語の語彙の特徴など）について講義します。</p> <p>(2) 上記(1)を踏まえ、各受講者に課題論文を作成・発表してもらいます。教員および受講生は、その論文の良い点を確認するとともに、その論文の完成度をより高めるためにはどのような点を改善していくべきかを、討議します。</p> <p>(3) 上記(2)とともに、各受講者は、毎週1本、自由に論文を選んでそれを読み、概要を報告します。これによって日本語学/日本文学の研究手法を学び、かつ自分の関心を広げたり明確化したりします。</p> <p>(4) 上記(3)の成果などをもとに、各受講者に自由にテーマ(問い)を掲げて論文を作成・発表してもらい、上記(2)と同様の討議を行います。</p> <p>なお評価に際しては、自分の調査・考察を適切にアウトプットできているか(主に文章の形で)という点も大いに重視します。研究活動においては、適切な表現や、引用のルールなど、遵守・留意の必要な事項が幾つかあります。このことの要点についても演習中に説明します。自分の知識や経験を適切にアウトプットする能力は、日本語学研究に限らず社会の幅広い局面において有用と考えられます。</p>											
【到達目標】											
<p>(イ) 日本語学研究における用例の集め方・扱い方を身につける。</p> <p>(ロ) 多数の実例に基づいて語の特徴を適切に記述できる。</p> <p>(ハ) 自分の知識や経験を適切にアウトプットできる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：講義（発表準備の方法について）</p> <p>第3・4回：講義（平安時代語の語彙・文体）</p> <p>第5～29回：受講者による発表</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

第30回：フィードバック（講評等）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点および期末課題による（100％）。

演習では、自分の発表だけでなく他人の発表も学習の大きな機会です。欠席はなるべく控えて下さい。特に、無断欠席は大幅な減点とします。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：古語辞典などによって対象語の基礎知識を得る。

復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系29

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を精読してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の僧法振「逢友人之上都」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 僧法振「逢友人之上都」											
第3回 顧況「山中」											
第4回 柳宗元「酬曹侍御過像峴見寄」											
第5回 李涉「宿武関」											
第6回 李涉「題開聖寺」											
第7回 李郢「宿虚白堂」											
第8回 王駕「晴景」											
第9回 王駕「社日」											
第10回 司空図「自河西帰山」											
第11回 韓アク野塘」											
第12回 巖維「歳初喜皇甫侍御至」											
第13回 皇甫冉「送魏十六」											
第14回 劉商「送王永」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（授業内での担当、発言）による。

**[教科書]**

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

**[参考書等]**

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

**[授業外学修（予習・復習）等]**

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系30

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の劉禹錫「酬楊八副使赴湖南見寄」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 劉禹錫「酬楊八副使赴湖南見寄」											
第3回 盧ドウ「逢鄭三遊山」											
第4回 元ジン「重贈商玲瓏兼寄樂天」											
第5回 姚合「採松花」											
第6回 張籍「哀孟寂」											
第7回 張籍「患眼」											
第8回 張籍「感春」											
第9回 雍陶「西歸出斜谷」											
第10回 雍陶「宿嘉陵驛」											
第11回 杜牧「醉後題僧院」											
第12回 趙力「經汾陽旧宅」											
第13回 鄭谷「十日菊」											
第14回 薛能「老圃堂」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（授業内での担当、発言）による。

**[教科書]**

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

**[参考書等]**

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）

**[授業外学修（予習・復習）等]**

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系31

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 本井 牧子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『地蔵菩薩靈驗絵詞』をよむ									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、東寺観智院所蔵の『地蔵菩薩靈驗絵詞』を題材として、中世の靈驗譚の具体相をあきらかにすることを目標とする。</p> <p>東寺観智院所蔵の『地蔵菩薩靈驗絵詞』は、地蔵菩薩にまつわる靈驗を描いた絵巻の詞書を書写したものである。享徳2(1453)年に天台僧頼教が書写した本にもとづくことが知られ、中世の地蔵信仰の実態をうかがう上で貴重な資料である。日本の説話を中心に構成されるが、中国宋代に撰述された常謹『地蔵菩薩応驗記』にもとづく説話も収められているなど、先行説話の影響も大きい。また、部分的ながら東寺本『絵詞』と同内容の絵巻や縮図なども確認されている。本授業では、この『地蔵菩薩靈驗絵詞』をテキストとして、日中の先行説話や地蔵菩薩関連の経典などと比較しつつ読み進めることで、中世における地蔵菩薩の靈驗譚がどのように展開しているかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原文に釈文・語釈を施し、通釈を作成するという、古典文学作品の読解のための基礎作業を行う手法を習得する。</li> <li>・説話文学上の問題を設定し、調査・考察を行う力を養う。</li> <li>・論拠を示した上で、自身の「よみ」に説得力をもたせるプレゼンテーション能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>担当教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、釈文・語釈・通釈を作成した上で、各自の問題意識による考察を行う。</p> <p>第1回 地蔵菩薩と関連経典の概説          第2回 中国における地蔵靈驗譚          第3回 日本における地蔵靈驗譚とその絵巻化          第4回～第14回 担当者による輪読          第15回 まとめ</p> <p>なお、受講生の人数・関心などに応じて、内容や進行方法が変更になる可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発表(40点)およびその成果をまとめたレポート(50点)、授業での討論・発表者へのコメント等の平常点(10点)により総合的に評価する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**[教科書]**

使用しない  
コピーを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
真鍋広済・梅津次郎 共編 『地蔵靈験記絵詞集』(古典文庫、1957)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

自分の担当の準備はもちろん、担当以外の回についても、あらかじめテキストを読んで問題点を抽出しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

連絡方法などはPandAに掲載予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系32

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 本井 牧子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世の地蔵靈験譚をよむ									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、近世に刊行された地蔵菩薩関連の説話集を題材として、近世における靈験譚の様相を具体的にあきらかにすることを目標とする。</p> <p>地蔵菩薩の靈験譚は、『日本靈異記』をその嚆矢として、時代を通じてさまざまに受容されてきた。近世になると、地蔵菩薩を冠する説話集が相次いで刊行され、出版というメディアの一角を占めるに至った。本授業では、こういった説話集のなかから、黄檗宗の僧侶である晦巖道熙による『地蔵菩薩感應伝』（貞享3年刊）や真言僧である蓮体による『礪石集』（元禄6年刊）などをテキストとして、前時代の地蔵菩薩靈験譚が、どのように継承され、再生産されているかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・原文に釈文・語釈を施し、通釈を作成するという、古典文学作品の読解のための基礎作業を行う手法を習得する。</li> <li>・説話文学上の問題を設定し、調査・考察を行う力を養う。</li> <li>・論拠を示した上で、自身の「よみ」に説得力をもたせるプレゼンテーション能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>担当者教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p> <p>第1回 地蔵菩薩靈験記の諸相          第2回 『地蔵菩薩感應伝』と黄檗僧による出版          第3回 『礪石集』と蓮体          第4回～第14回 担当者による輪読          第15回 まとめ</p> <p>なお、受講生の人数・関心などに応じて、内容や進行方法が変更になる可能性がある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業における発表（40点）およびその成果をまとめたレポート（50点）、授業での討論・発表者へのコメント等の平常点（10点）により総合的に評価する。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**[教科書]**

使用しない  
影印のコピーをテキストとして配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
真鍋広済 解説 『地藏菩薩靈驗記四』(古典文庫、1964)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

自分の担当の準備はもちろん、担当以外の回についても、あらかじめテキストを読んで問題点を抽出しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

連絡方法などはPandAに掲載予定

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系33

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		花園大学 文学部 教授 橋本 行洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		新語の造出と定着 通時的観点から考える									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、比較的近年に定着を見た新語・新表現を対象として、その造出過程と定着の様相を観察し、考察を行う。</p> <p>その上で、新語の定着にはどのような要素が関わるのか、それは通時的な普遍性を有するものであるかを分析する。</p>											
【到達目標】											
<p>語史・語彙史研究における基礎的知識を習得するとともに、コーパス・データベースを駆使した用例蒐集の方法を身につけ、同時に電子メディアの限界についても知見を得ることを目的の1つとする。</p> <p>また、単独の語についての考察（＝語史研究）を行う際にも、常に他の語・語彙との関わりを考えると（＝語彙史研究の視点）の必要性を、実例を以て検証する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 【導入】「新語」とは何か / 新語と流行語</p> <p>第2回 新語研究の具体例</p> <p>第3回 新語研究の具体例</p> <p>第4回 新語研究の具体例</p> <p>第5回～第14回 受講者による発表と検討</p> <p>第15回 まとめ：演習によって得られた知見について</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
「平常点」にて評価する（レポートを課すこともある）。											
【教科書】											
<p>必要に応じて資料を配布する。</p> <p>また、受講者が発表を行う際には、各自が人数分の発表資料を準備する。</p>											
----- 国語学国文学(演習) (2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習) (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介したコーパス・データベース等を自分でも使用してみる。  
“気になることば(語・表現)”を見つけ、どこが気になるのか、どこが問題なのかを考察してみる(その際、先行研究についても確認する)。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡はメールを用いて行う。  
アドレスは下記の通り。  
y-hashm@hanazono.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系34

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		花園大学 文学部 教授 橋本 行洋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本語史上の新語・新用法									
【授業の概要・目的】											
本演習では、日本語における語史・語彙史研究についての実践を行い、具体的にその方法をに体得することを目的とする。											
【到達目標】											
語史・語彙史研究の実践を行うとともに、コーパス・データベースを駆使した用例蒐集の有用性と限界を体得することを目標とする。同時に電子メディアの限界を知り、従来の所謂「アナログ方式」との併用の必要性についても実感してもらいたい。 また、単独の語についての考察(=語史研究)を行う際にも、常に他の語・語彙との関わりを考えること(=語彙史研究の視点)の必要性を、実例を以て検証する。											
【授業計画と内容】											
第1回 日本語の造語法：普遍と変化 第2回 語史・語彙史研究の具体例 第3回 語史・語彙史研究の具体例 第4回 語史・語彙史研究の具体例 第5回～第14回 受講者による発表と検討 第15回 まとめ：演習によって得られた知見について											
【履修要件】											
国語学国文学(演習)前期											
【成績評価の方法・観点】											
「平常点」にて評価する(レポートを課すこともある)。											
【教科書】											
必要に応じて資料を配布する。 また、受講者が発表を行う際には、各自が人数分の発表資料を準備する。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習) (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介したコーパス・データベース等を自分でも使用してみる。  
“気になることば(語・表現)”を見つけ、どこが気になるのか、どこが問題なのかを考察してみる(その際、先行研究についても確認する)。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡はメールを用いて行う。  
アドレスは下記の通り。  
y-hashm@hanazono.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		田澤稲舟作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>田澤稲舟が文壇にデビューした明治二十年後半、近代文学の黎明期に、女性作家たちは批評家たちの興味本位の目にも晒されながら、どのようにして小説を執筆していったのか、彼女たちにとって小説執筆とは何だったのか、当時の、特に女性作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での稲舟の文学の特質について多角的に考察する。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>明治期の女性作家田澤稲舟の作品を読むことを通じて、稲舟の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 田澤稲舟についての概説。『文芸倶楽部』掲載、稲舟作品概観。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、教員からの講評を行う。</p> <p>3. 明治二十年代の文壇と女性作家をめぐる状況（『文芸倶楽部』第一巻第十二編臨時増刊「閨秀小説」を材料として）。</p> <p>4. 明治二十年代の文壇と女性作家をめぐる状況（樋口一葉宛関如来書簡を材料として）。</p> <p>5. 明治二十年代の文壇と女性作家をめぐる状況の問題点（稲舟作「しろばら」の同時代批評を材料として）。</p> <p>6. 稲舟作「しろばら」を読む。</p> <p>7. 「しろばら」のヒロインの造形と作品の展開との関連。「しろばら」の語り手の特徴。</p> <p>8. 明治二十年代の女性を取り巻く時代状況（樋口一葉「遠山鳥」、巖本善治「婚姻論」を材料として）。</p> <p>9. 樋口一葉作「十三夜」を読む。</p> <p>10. 「しろばら」と「十三夜」との比較。</p> <p>11. 稲舟作品の同時代批評検討。</p> <p>12. 稲舟と一葉の同時代評価の比較と、当時の批評の問題点。</p> <p>13. 稲舟作「医学修業」を読む。</p> <p>14. 同時代の文壇に対する稲舟の姿勢。稲舟と山田美妙。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、文学史の中での稲舟の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- 国語学国文学(演習) (2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習) (2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

### [教科書]

授業中に指示する

田澤稲舟の作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

### [参考書等]

（参考書）

田澤稲舟 『田澤稲舟全集』（東北出版企画、1988年）

細矢昌武編著 『田澤稲舟研究資料』（無明舎出版、2001年）ISBN:9784895442671

田澤稲舟他 『新日本古典文学大系明治編 女性作家集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402239

樋口一葉 『新日本古典文学大系明治編 樋口一葉集』（岩波書店、2001年）ISBN:9784002402246

### [授業外学修（予習・復習）等]

稲舟や一葉の作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

### （その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花の初期作品を読みながら、明治二十年代、近代文学の黎明期に、作家たちがどのようにして小説を執筆していったのか、彼らにとって 小説執筆 とは何だったのか、当時の作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での鏡花文学の特質について多角的に考察する。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花の作品を読むことを通じて、鏡花の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 泉鏡花についての概説。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、教員からの講評を行う。</p> <p>3. 鏡花の随筆・談話等を読み、鏡花が触れていた先行文芸について理解する。</p> <p>4. 鏡花の論説「愛と婚姻」を読み、その恋愛・結婚観を理解する。。</p> <p>5. 同時代批評を読み、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する（「義血侠血」「外科室」）。</p> <p>6. 同時代批評を読み、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する（「夜行巡查」「海城発電」）。</p> <p>7. 同時代批評を読み、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する（「琵琶伝」「化銀杏」）。</p> <p>8. 「夜行巡查」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>9. 「海城発電」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>10. 「義血侠血」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>11. 「外科室」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>12. 「琵琶伝」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>13. 「化銀杏」を読み、登場人物の特色について考察する。</p> <p>14. 鏡花作品の人物造型の特色を、鏡花が親しんでいた先行文芸と比較しつつ分析する。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、当時の文壇や文学史の中での鏡花の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

### [教科書]

授業中に指示する  
作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

### [参考書等]

（参考書）

泉鏡花 『鏡花全集』（岩波書店、1973～1976年）（全28巻＋別巻があります。）

泉鏡花 『新編泉鏡花集』（岩波書店、2003～2006年）（全10巻＋別冊が2冊あります。）

泉鏡花 『新日本古典文学大系明治編第20巻 泉鏡花集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402208

泉鏡花 『日本近代文学大系第7巻 泉鏡花集』（角川書店、1970年）ISBN:9784045720079

### [授業外学修（予習・復習）等]

鏡花や尾崎紅葉、樋口一葉などの作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

### （その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系37

科目ナンバリング		U-LET10 21350 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(講読) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部 講師 岡村 弘樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『竹取物語抄抜書』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>国語学国文学研究における基礎的な方法や考え方を身に付けることを目的とし、江戸時代の注釈書『竹取物語抄抜書』を読み進める。本書では『竹取物語』に対して、平安時代の和文作品のみならず古辞書、漢籍、仏典をも参照して注釈が加えられている。これらの注釈が意味するところを確認しつつ、併せて『竹取物語』本文の精読も行う。授業は受講者による担当箇所の発表と質疑応答によって進める。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究における基礎的な方法・考え方を習得する。</li> <li>・ くずし字が解読できるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
【各授業の内容】											
第1回 導入 ガイダンス											
第2回 導入 模擬発表と解説											
第3回 導入 『竹取物語』について											
以下の丁数は国文学研究資料館蔵本による。											
おおよその目安であり、適宜調整する。											
第4回 発表 1丁											
第5回 発表 2丁											
第6回 発表 3丁											
第7回 発表 4丁											
第8回 発表 5丁											
第9回 発表 6丁											
第10回 発表 7丁											
第11回 発表 8丁											
第12回 発表 9丁											
第13回 発表 10丁											
第14回 発表 11丁											
(試験) くずし字読解試験											
第15回 前期フィードバック											
第16回 前期の振り返り											
第17回 発表 12丁											
第18回 発表 13丁											
第19回 発表 14丁											
第20回 発表 15丁											
第21回 発表 16丁											
第22回 発表 17丁											
----- 国語学国文学(講読)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(講読)(2)

第23回 発表 18丁  
第24回 発表 19丁  
第25回 発表 20丁  
第26回 発表 21丁  
第27回 発表 22丁  
第28回 発表 23丁  
第29回 発表 24丁

(試験)くずし字読解試験

第30回 後期フィードバック

受講者の人数や発表希望者の数により、導入の授業数を調整する可能性がある。  
なお、授業内に発表が回らなかった受講者は、年度末にレポートとして提出する。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

発表・レポートの内容(60点)、質疑応答への積極的な参加(20点)、各学期末のくずし字の試験(20点)により評価する。

### 【教科書】

プリントを授業中に配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

『くずし字解読辞典』(東京堂出版)等のくずし字の辞典を準備することが望ましい。その他については適宜紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

担当箇所を十分調査するのはもちろんのこと、担当以外の箇所も入念に予習して不明な点、問題となる点を見出し、授業での質疑応答に備えること。

(その他(オフィスアワー等))

ガイダンスや担当箇所決めを行うので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



## 東洋文化学系38

科目ナンバリング		U-LET10 41345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(卒論演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信 文学研究科 教授 金光 桂子 文学研究科 准教授 河村 瑛子 文学研究科 講師 田中 草大			
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文演習									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の執筆にむけての指導を行う。論文の題目を何にするか、どのような方法で資料を集め、分析し、そこからどのような結論を導くか、各自工夫し、考えたことを発表し、相互批判し、また教員の指導を受ける機会とする。卒業論文を提出する予定の四回生は、かならず受講し、中間発表会で発表しなければならない。											
[到達目標]											
卒業論文作成のための、それぞれの分野における基礎資料を調査する方法を身に付け、また中間発表で論文の概要を口頭発表し、他の出席者、教員の助言をうけることにより、論証の方法を反省し、修正することが可能になる。											
[授業計画と内容]											
最初の授業時に、全員、どのような卒業論文を書こうとしているか、概略を発表する。その後は個別の指導を行い、後期の授業がはじまる前に、数日間の日程をとって集中的に中間発表会を行う。											
[履修要件]											
今年度末に学部卒業見込みの者。											
[成績評価の方法・観点]											
中間発表による。											
[教科書]											
使用しない											
----- 国語学国文学(卒論演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(卒論演習)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する  
特になし。

[授業外学修(予習・復習)等]

最初の時間に、各自が卒業論文に何を書くかその概要を発表するが、十分な準備をした上で臨むこと。また、中間発表では、論証のための調査と考察に力を尽くすことはもちろんのこと、限られた時間内において分かりやすい発表をするために原稿を準備し、発表の練習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

(関連URL)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\\_download\\_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門(資料)(中里見敬氏))

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理 (永田知之))

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106\\_1493/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja)(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために (小島浩之氏))

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系40

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 経部・概説 第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類） 第4回 経部・四書等（四書類～小学類） 第5回 史部・概説 第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類） 第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類） 第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類） 第9回 子部・概説 第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類） 第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類） 第12回 集部・概説 第13回 集部・各論 第14回 叢書部 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。  
評価の6割はレポート、4割は平常点による。  
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。  
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。  
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系41

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初唐文学研究									
【授業の概要・目的】											
唐代の文学は一般に初唐、盛唐、中唐、晩唐と4つの時期に分けられる。この講義の目的は、4時期のうち初唐文学の特色を明らかにすることにある。初唐は南北朝時代の形式を重視した文学を克服し、盛唐文学を準備した時期とされる。韻文だけでなく、散文作品も取り上げ、この時期の文学の様相を具体的に明らかにする。											
【到達目標】											
唐代は詩の時代とされるが、散文もまた多くのジャンルで優れた作品が作られた。詩だけではなく散文作品の読解を通して、この時期の文学の特色と文学史における意義を明らかにする。過渡期とされる初唐文学に注目することにより、その前後の時期の文学の特色も明確に理解することができる。。											
【授業計画と内容】											
第1 初唐という時期について 第2 初唐以前の文学と初唐1。 第3 初唐以前の文学と初唐2 第4 初唐以後の文学1 第5 初唐以後の文学2 第6 初唐文学の作者たち1 第7 初唐文学の作者たち2 第8 初唐の韻文と散文作品選読1 第9 初唐の韻文と散文作品選読2 第10 初唐の韻文と散文作品選読3 第11 初唐の文学観 第12 初唐文学に対する論評1 第13 初唐文学に対する論評2 第14 東アジア古典文学世界と初唐文学 第15 まとめ・文学史における初唐文学の位置付け											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

中国の散文の歴史について、基本的な知識を得ておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系42

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		唐代詩序選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解することを目的とする。本講義では、東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げたい。											
【到達目標】											
詩序は、中国文学の散文の主要なジャンルである。読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
授業計画と											
【授業計画と内容】											
第1 詩序について概説 第2 詩序の文体（駢文と古文） 第3 詩序の用途、詩序の場 第4 作品選読1・中唐1 第5 作品選読2・中唐2 第6 作品選読3・中唐3 第7 作品選読4・平安朝の詩序 第8 中唐の詩序の特色。 第9 作品選読5・晩唐1 第10 作品選読6・晩唐2 第11 作品選読7・晩唐3 第12 晩唐の詩序の特色。 第13 詩序の役割とその変容。 第14 唐以降の詩序概説 第15 まとめ詩の場と詩序											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の散文文体について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系43

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明清期官話研究									
[授業の概要・目的]											
<p>ここで扱う「官話」は、明清期の中国で通行した通用言語を指す。現在「官話方言」と称される中国に広く分布する方言を扱うものではない。この歴史的通用言語は、文献の中で様々な姿をもって描写され、また語られるが、その実態に関しては未だ確たる定義は与えられていない。本授業では、明清期の様々な文献資料の中に登場する「官話」を丁寧に読解することを通して、それがどのような性格をもっていたのかについて考察する。</p>											
[到達目標]											
<p>・官話を巡る文献資料の読解を通じ、官話の多様なあり方を学び、中国語に対する理解を深めることを目指す。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回            イントロダクション          第2－5回       官話の出現：明代の文献から          第6－10回     官話の変容：清代の文献から          第11－14回   官話の渡海：琉球、長崎の文献から          第15回         まとめ</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（小レポートや授業への参加状況）（50％）および期末レポート（50％）による。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する											
[参考書等]											
<p>（参考書）          牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 『中国文化叢書1 言語』（大修館書店、2011年新装版）ISBN: 9784469232646</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
配布する文献資料は、予め目を通し読解しておくこと。授業中に、受講者に翻訳を求めることがあります。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系44

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 松江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代中国語における複文の諸相									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、古代中国語の複文について、如何なる形式的・機能的特徴を備え、歴史的に如何なる過程を辿ったのかを理解することにある。</p> <p>現代中国語の複文の体系について、日本語と対照しつつ概説した後、上古中国語の複文について、中国語で書かれた専門書を読解することにより、古代中国における複文を巡る諸問題について理解する。さらに中国語の複文体系の史的变化および古代中国語の複文の類型論的特徴について理解する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代中国語の複文について、形式面・機能面から現代中国語の複文体系との相違を理解した上で、中国語の複文体系の史的变化および古代中国語の複文の類型論的特徴について考察することができる</p>											
【授業計画と内容】											
<p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、形式面・機能面から現代中国語の複文体系を解説する。第3回から第11回までは、梅広『上古漢語語法綱要』(台北：三民書局，2015年)第三章「偏正結構：条件句」を読解しつつ、古代中国における複文を巡る諸問題を検討する。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員がその内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のものである。ただし講義の進度や受講者の状況によって、テーマごとの回数や順序を変更することがある。</p>											
<p>第1回 授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介          第2回 現代中国語における複文の類型(1)          第3回 現代中国語における複文の類型(2)          第4回 梅広2015「1. 条件的非突然与突然」          第5回 梅広2015「2. 仮設複句」(1)          第6回 梅広2015「2. 仮設複句」(2)          第7回 梅広2015「2. 仮設複句」(3)          第8回 梅広2015「2. 仮設複句」(4)          第9回 梅広2015「3. 譲歩複句」(1)          第10回 梅広2015「3. 譲歩複句」(2)          第11回 梅広2015「3. 譲歩複句」(3)          第12回 中古以降の複文の類型(1)          第13回 中古以降の複文の類型(2)          第14回 まとめ          第15回 フィードバック</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

中国語学習の経験者であること。  
中国古典についての基礎的な知識を備えていること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を発表することにより代替することが可能とする。

### 【教科書】

使用しない  
ハンドアウトを配布する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系45

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 松江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代中国語の引用表現									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、古代中国語の引用表現について、如何なる形式的・機能的特徴を備え、歴史的に如何なる過程を辿ったのかを理解することにある。</p> <p>現代中国語の引用表現について、日本語と対照しつつ概説した後、上古中国語の引用表現について、中国語で書かれた論文を読解することにより、古代中国における引用表現を巡る諸問題について理解する。さらに中国語の引用表現の史的变化および古代中国語の引用表現の類型論的特徴について理解する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代中国語の引用表現について、形式面・機能面から現代中国語の引用表現との相違を理解した上で、中国語の引用表現の史的变化および古代中国語の引用表現の類型論的特徴について考察することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、形式面・機能面から現代中国語の引用表現を解説する。第3回から第7回は中国語で書かれた董秀芳「実際語篇中直接引語と間接引語的混用現象」(『言語科学』第7巻第4期, 2008年)、第8回から第11回は杜道流「古代漢語動詞“問”帯賓語結構的演变」(『言語科学』第4巻第2期, 2005年)を読解しつつ、古代中国における引用表現を巡る諸問題を検討する。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出した上で授業を行い、教員がその内容について、解説と補足を行う。具体的な授業計画は以下のものである。ただし講義の進度や受講者の状況によって、テーマごとの回数や順序を変更することがある。</p>											
<p>第1回 授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介          第2回 現代中国語における引用表現(1)          第3回 現代中国語における引用表現(2)          第4回 董秀芳2008の講読(1)          第5回 董秀芳2008の講読(2)          第6回 董秀芳2008の講読(3)          第7回 董秀芳2008の講読(4)          第8回 杜道流2005の講読(1)          第9回 杜道流2005の講読(2)          第10回 杜道流2005の講読(3)          第11回 杜道流2005の講読(4)          第12回 中古以降の複文の類型(1)          第13回 中古以降の複文の類型(2)          第14回 まとめ</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第15回 フィードバック

**【履修要件】**

現代中国語を学習した経験があること。  
中国古典について基礎的な知識を持っていること。

**【成績評価の方法・観点】**

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を發表することにより代替することが可能とする。

**【教科書】**

使用しない  
ハンドアウトを配布する。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系46

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の方言について									
【授業の概要・目的】											
本講義は中国の諸方言について大まかな枠組み、各方言の特徴を概観することを目的とする。また歴史的な観点から、中古音および上古音との関係についても紹介する予定である。											
【到達目標】											
中国語の諸方言の枠組みを理解している 各方言の特徴を説明できる 中国語特有の方言調査の手法を身につける											
【授業計画と内容】											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 前半：基礎的な内容 第1回－第3回：ガイダンス 調音音声学、音韻論と中国語音韻学の述語の確認 第4回－第6回：中国語諸方言の概要 第7回－第9回：中古音との対応関係、中国語方言の調査方法について  後半：個別の事例と近年の研究成果 第10回、第11回、第12回、第13回、第14回 毎回個別の方言を取り上げて、その特徴について考察・議論する 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み（50点）と授業内発表・小レポート（50点）											
【教科書】											
使用しない 配布資料を準備する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											



中国語学中国文学(特殊講義)(2)

適宜紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

**（その他（オフィスアワー等））**

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系47

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>中古音の基本的な概念を理解する          中古音の声母・韻母の用語を覚える          中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる          字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>											
【授業計画と内容】											
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について          第4回－第6回 切韻系韻書、反切について          第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について          第10回 中古音の用語チェック          後半は中古音に関連する事項について紹介する。          第11回－第14回 字書、義書について          第15回 まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への積極的な参加（20%）          小テスト（50%）          レポート（30%）</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリントを配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系48

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 人文学研究科 教授 浅見 洋二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宋代文学研究 蘇軾・陸游を中心に									
【授業の概要・目的】											
宋代の文学について、北宋・蘇軾と南宋・陸游を中心に、両者を比較するかたちで考察する。宋代を代表する二人の文学の考察を通して、中国前近代社会における文人士大夫の精神世界と、文学作品の生成・受容・伝承の諸相を明らかにする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国宋代における文人士大夫の社会的特性を理解する。</li> <li>・宋代の文人士大夫をとりまく官僚社会の特性を理解する。</li> <li>・宋代の文人士大夫の精神世界の特性を理解する。</li> <li>・中国宋代における文学作品の生成・受容・伝承のあり方を理解する。</li> <li>・蘇軾・陸游という文人士大夫の個性について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
この講義では、以下のいくつかのテーマを中心に考えてみたい。授業の進捗状況や履修者の関心の状況によって、多少の内容変更がありうる。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 蘇軾と陸游の生涯についての概説 【第1回】</li> <li>(2) 蘇軾における官界での挫折 【第2回】</li> <li>(3) 陸游における官界での挫折 【第3回】</li> <li>(4) 蘇軾の田園生活 【第4回】</li> <li>(5) 陸游の田園生活 【第5・6回】</li> <li>(6) 蘇軾の文学テキスト：政治的公文書 【第7回】</li> <li>(7) 蘇軾の文学テキスト：詩詞 【第8回】</li> <li>(8) 蘇軾の文学テキスト：書簡 【第9・10回】</li> <li>(9) 陸游の文学テキスト：政治的公文書 【第11回】</li> <li>(10) 陸游の文学テキスト：詩詞 【第12・13回】</li> <li>(11) 蘇軾と陸游の比較および総括 【第14・15回】</li> </ul>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（20点）と最終レポートの成績（80点）による。レポートについては到達目標の達成度、および独創性に基づき評価する。

### [教科書]

授業中に指示する  
授業に必要な資料については、プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

浅見洋二ほか 『皇帝のいる文学史：中国文学概説』（大阪大学出版会，2015）ISBN:9784872595048

浅見洋二 『中国宋代文学の圏域：草稿と言論統制』（研文出版，2019）ISBN:9784876364473

浅見洋二 『新釈漢文大系詩人編 陸游』（明治書院，2022）ISBN:未定

### [授業外学修（予習・復習）等]

上記の参考書は、本授業の内容に密接に関連するので、目を通しておいてもらうことが望ましい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系49

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		王安石文									
【授業の概要・目的】											
北宋の王安石（1021-1086）は、唐宋八大家の一人に数えられる詩文の名手である。本演習では、王安石『臨川先生文集』巻七十一の雑著を講読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国語文言文をスムーズに音読することができる。</li> <li>・ 文化的背景を踏まえて古文テキストの表現内容を理解することができる。</li> <li>・ 古文の表現上の特性を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
概ね以下のスケジュールによって読み進めるが、出席者の理解度に応じて進度を適宜調整する。											
第1回 王安石とその古文についての概観、使用テキストの確認											
第2～3回 「先大夫述」											
第4回 「先大夫集序」「題王逢原講孟子後」											
第5～7回 「許氏世譜」											
第8回 「傷仲永」											
第9回 「同學一首別子固」「書瑞新道人壁」											
第10回 「讀孟嘗君傳」「讀柳宗元傳」											
第11回 「讀江南錄」											
第12回 「書李文公集後」											
第13回 「書刺客傳後」「孔子世家議」											
第14回 「書洪範傳後」											
第15回 総括											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習に十分に時間をかけることを前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への積極的な参加、中国語による音読の習熟度、テキストの理解度）による。											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 『新華字典』（商務印書館）											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

『古漢語常用字字典(繁體字本)』（商務印書館）ISBN:9787100053648

**[授業外学修（予習・復習）等]**

全文を中国語で明瞭に朗読できるよう字音を調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系50

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		王安石文									
【授業の概要・目的】											
北宋の王安石（1021-1086）は、唐宋八大家の一人に数えられる詩文の名手である。本演習では、王安石『臨川先生文集』巻八十二の記を講読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語文言文をスムーズに音読することができる。</li> <li>・文化的背景を踏まえて古文テキストの表現内容を理解することができる。</li> <li>・古文の表現上の特性を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
概ね以下のスケジュールによって読み進めるが、出席者の理解度に応じて進度を適宜調整する。											
第1回 王安石とその古文についての概観、使用テキストの確認											
第2～4回 「虔州學記」											
第5回 「君子齋記」											
第6回 「度支副使廳壁題名記」											
第7回 「桂州新城記」											
第8回 「太平州新學記」											
第9回 「繁昌縣學記」											
第10～11回 「信州興造記」											
第12～13回 「餘姚縣海塘記」											
第14回 「通州海門興利記」											
第15回 総括											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習に十分に時間をかけることを前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への積極的な参加、中国語による音読の習熟度、テキストの理解度）による。											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書）											
『新華字典』（商務印書館）											
『古漢語常用字字典(繁體字本)』（商務印書館）ISBN:9787100053648											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											



中国語学中国文学(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

全文を中国語で明瞭に朗読できるよう字音を調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系51

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『中国新文学大系』選読1									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀以降の中国文学作品は古典的文学作品とは一線を画し、1915年発刊の『新青年』を舞台に展開した白話運動によってその文体上の基盤が築かれた。1919年の五・四運動を経て、多様な文学結社と文学思潮による論争を経、徐々に近代的文学作品を生み出していく過程は、中国における「近代」を考える上での多くの示唆を与えてくれる。本授業では、その新文学形成期の代表的作品群を読むことにより、中国文化における近代、また白話と文言との相関関係など、中国語学・文学の基礎的知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>本年は、『中国新文学大系』から当時の思潮及び文学の動向を伝える作品を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>中国現代文学を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、20世紀初頭の時代背景を踏まえて文学作品を読む力を養う。中でも、正確な読解力と文学的鑑賞力を重視する。また、時代背景や作品の位置づけなどについては、受講者が自力で調査し発表することを求め、それによって研究発表の能力を育成する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>『中国新文学大系』導論を読む。受講生は、必ず予習をして授業に臨むこと。</p> <p>授業では受講生全員が翻訳を担当し、それ以外に、各自の課題を見つけるよう、関連する文献を読み込むことを求める。</p> <p>第1回：資料、参考書の説明          第2-4回：『中国新文学大系』文学論争集（1）          第5-7回：『中国新文学大系』文学論争集（2）          第8-11回：『中国新文学大系』散文（1）          第12-14回：『中国新文学大系』散文（2）          第15回：「文学論争」「散文」に関するディスカッション</p>											
【履修要件】											
<p>全学共通科目にて、中級中国語を履修していること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点評価。読解能力のみならず、討論時の発言も評価の対象とする。</p>											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

**[教科書]**

資料をコピーまたはPandAにて配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者は、原文の翻訳を用意して授業に臨むこと。また授業中の議論に積極的に参加し、文献調査を分担すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

最初の授業で、予習方法などを説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系52

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『中国新文学大系』選読2									
[授業の概要・目的]											
前期に引き続き、『中国新文学大系』所収の作品を読む。											
[到達目標]											
中国現代文学を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、20世紀初頭の時代背景を踏まえて文学作品を読む力を養う。中でも、正確な読解力と文学的鑑賞力を重視する。また、時代背景や作品の位置づけなどについては、受講者が自力で調査し発表することを求め、それによって研究発表の能力を育成する。											
[授業計画と内容]											
『中国新文学大系』導論を読む。受講生は、必ず予習をして授業に臨むこと。 授業では受講生全員が翻訳を担当し、それ以外に、各自の課題を見つけるよう、関連する文献を読み込むことを求める。 第1回：前期を踏まえての問題点の確認 第2-8回：『中国新文学大系』戯劇を読む 第9-14回：『中国新文学大系』小説を読む 第15回：総括討論 受講者は、討論に関する資料調査を担当する。											
[履修要件]											
全学共通科目で中級中国語を履修していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。翻訳読解のみならず、討論時の発言、調査報告についても評価の対象とする。											
[教科書]											
資料をコピーまたはPandAにて配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は、原文の翻訳を用意して授業に臨むこと。また授業中の議論に積極的に参加し、文献調査を分担すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の僧法振「逢友人之上都」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 僧法振「逢友人之上都」											
第3回 顧況「山中」											
第4回 柳宗元「酬曹侍御過像峴見寄」											
第5回 李涉「宿武関」											
第6回 李涉「題開聖寺」											
第7回 李郢「宿虚白堂」											
第8回 王駕「晴景」											
第9回 王駕「社日」											
第10回 司空図「自河西帰山」											
第11回 韓アケ野塘」											
第12回 巖維「歳初喜皇甫侍御至」											
第13回 皇甫冉「送魏十六」											
第14回 劉商「送王永」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（授業内での担当、発言）による。

**【教科書】**

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

**【参考書等】**

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

**【授業外学修（予習・復習）等】**

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系54

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を精読してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ精確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の劉禹錫「酬楊八副使赴湖南見寄」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 劉禹錫「酬楊八副使赴湖南見寄」											
第3回 廬ドウ「逢鄭三遊山」											
第4回 元ジン「重贈商玲瓏兼寄樂天」											
第5回 姚合「採松花」											
第6回 張籍「哀孟寂」											
第7回 張籍「患眼」											
第8回 張籍「感春」											
第9回 雍陶「西歸出斜谷」											
第10回 雍陶「宿嘉陵駅」											
第11回 杜牧「酔後題僧院」											
第12回 趙力「経汾陽旧宅」											
第13回 鄭谷「十日菊」											
第14回 薛能「老圃堂」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（授業内での担当、発言）による。

**[教科書]**

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

**[参考書等]**

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

**[授業外学修（予習・復習）等]**

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系55

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代短篇小説選読									
[授業の概要・目的]											
中国語で「現代」という場合、概ね1910年代の五四新文化運動から1949年の中華人民共和国成立までを指す。本講読では、この時代の代表的な作家による短篇小説を選読する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口語から書面語にわたる幅広い中国語表現を正確に理解することができる。</li> <li>・現代文学に表現された当時の社会・文化に対する視点を批判的に理解する。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 中国現代文学概観、使用テキストの確認 第2～3回 魯迅 第4～5回 葉聖陶 第6～8回 茅盾 第9～11回 巴金 第12～14回 老舍 第15回 総括											
[履修要件]											
全学共通科目で中国語初級の基礎力を確実に身につけており、正確な発音を心がけていること。授業外学習の欄に記すとおり、予習に応分の時間をかけることを前提とする。中国語を母語とする学生は対象としない。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(中国語の発音評価を含む)70%、試験30%。											
[教科書]											
授業中にプリント資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 『新華字典』(商務印書館)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
中国語の原典をそのまま用いるので、予習に時間をかけなくてはならない。特に、ピンインを調べて覚えるために一定の時間と労力を割くこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
中国語学中国文学専修の学生は、後期に開講する講読とあわせて4単位を取得する必要がある。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系56

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		唐詩入門									
【授業の概要・目的】											
中国でスタンダードな唐詩のアンソロジーとして親しまれている『唐詩三百首』の本文により、古典詩の主要な形式が出そろい、重要な作者・作品に富んだ唐の時代の詩を読む。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代中国語による音読をとおして中国古典詩固有の韻律を体得する。</li> <li>・中国古典詩の形式を理解する。</li> <li>・現代中国語の注解を手がかりとして中国古典詩文を読解する基礎力を獲得する。</li> <li>・唐詩の表現するところをその文化的背景を含めて理解することができる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のスケジュールにそって読み進める。現代中国語による注釈・解説の読解を含む。 第1回 唐詩の概観、使用テキストの確認 第2～4回 絶句 第5～8回 律詩 第9～11回 古詩 第12～14回 楽府 第15回 総括											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語初級・中級をあわせてすでに1年半程度学習してきた学部学生を主な対象として授業をすすめる。正確な発音を心がけること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（中国語の発音評価を含む）70%、試験30%											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>『新譯唐詩三百首』（三民書局）ISBN:9789571430232</p> <p>『新華字典』（商務印書館）ISBN:9787100170932</p> <p>『古代漢語詞典』（商務印書館）ISBN:9787100099806</p> <p>小川環樹『唐詩概説』（岩波書店）ISBN:9784003810910</p> <p>村上哲見『唐詩』（講談社）ISBN:9784061593527</p>											
----- 中国語学中国文学(講読)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(講読)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

詩の本文を正確な発音で読めるように十分練習し、また注解の部分も通読して授業に臨むこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

中国語学中国文学専修の学生は、前期に開講する講読とあわせて4単位を取得しなければならない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	4回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 1									
【授業の概要・目的】											
本課程為高級漢語寫作練習課。授課時將就某一寫作方法先挑選或者節選一篇範文，一邊進行提問，一邊講解難點，分析其寫作特色；然後布置作文作業。作文作業收回批閱后發還，並在課堂上進行講評，分析篇章結構和遣詞造句中存在的問題。希望學生們通過一年的學習，能做到書寫文章大致通順傳情達意基本無礙。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體字，課程說明暫用日文漢字。授課時使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
培養學生高級漢語寫作能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩週為一單元，讀一篇範文，寫一篇作文。 根據授課的實際情況，内容和進度有可能進行適當調整。此外、課堂上也有隨時的短文写作。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導論</li> <li>2 記叙文(一) 簡單的記人</li> <li>3 記叙文(二) 簡單的敘事</li> <li>4 作文講評</li> <li>5 説明文(一) 説明事物</li> <li>6 説明文(二) 解説事理</li> <li>7 作文講評</li> <li>8 補充説明</li> <li>9 應用文(一) 讀後感</li> <li>10 應用文(二) 觀後感</li> <li>11 作文講評</li> <li>12 議論文(一) 立論</li> <li>13 議論文(二) 駁論</li> <li>14 作文講評</li> <li>15 總結</li> </ol>											
【履修要件】											
原則として、中文口語1・中文口語2を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確実であること(新HSK5級程度)。 中国語を母語とする学生は受講できない(以漢語為母語的學生不可選修)。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（30％）および作文（70％）

**[教科書]**

適当挑選或者節選一些文体各異的中文文章來作為範文。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に指示

**（その他（オフィスアワー等））**

履修者数上限は8名とし、中国語学中国文学研究室の大学院生を優先する。余裕のある場合のみ、中国語学中国文学研究室の学部学生を受け入れる。初回の授業でレベル確認の試験をおこなう。  
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	4回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 2									
【授業の概要・目的】											
本課程為高級漢語寫作練習課。授課時將就某一寫作方法先挑選或者節選一篇範文，一邊進行提問，一邊講解難點，分析其寫作特色；然後布置作文作業。作文作業收回批閱后發還，並在課堂上進行講評，分析篇章結構和遣詞造句中存在的問題。希望學生們通過一年的學習，能做到書寫文章大致通順傳情達意基本無礙。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體字，課程說明暫用日文漢字。授課時使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
培養學生高級漢語寫作能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩週為一單元，讀一篇範文，寫一篇作文。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。此外、課堂上也有隨時的短文写作。											
1 導論 2 記叙文(三) 複雜的記人 3 記叙文(四) 複雜的叙事 4 作文講評 5 説明文(三) 説明事物 6 説明文(四) 解説事理 7 作文講評 8 補充説明 9 議論文(三) 立論 10 議論文(四) 駁論 11 作文講評 12 專業論文(一) 討論語言学問題 13 專業論文(二) 討論文学問題 14 作文講評 15 總結											
【履修要件】											
原則として、中文口語1・中文口語2を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること(新HSK5級程度)。 中国語を母語とする学生は受講できない(以漢語為母語的學生不可選修)。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（30％）および作文（70％）

**[教科書]**

適当挑選或者節選一些文体各異的中文文章來作為範文。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に指示。

**（その他（オフィスアワー等））**

履修者数上限は8名とし、中国語学中国文学研究室の大学院生を優先する。余裕のある場合のみ、中国語学中国文学研究室の学部学生を受け入れる。初回の授業でレベル確認の試験をおこなう。  
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系59

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び中国語
題目		中文口語 1									
【授業の概要・目的】											
本課程為文學部本科生高級漢語口語練習課，課堂上全部使用漢語。要求學生們做好充分預習，上課時積極參與解讀和討論，在多種多樣的實際語言情景中練習和掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。希望學生們通過一年的學習，達到能通過新H S K（漢語水平考試）5級的水平。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體，課程說明暫用日文漢字。上課使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩到三週為一單元，圍繞一個主題，互問互答，各抒己見。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。											
1 導論 2 自我介紹（一） 基本形式 3 中日見聞（一） 歷史 4 中日見聞（二） 歷史 5 中日見聞（三） 當代社会与文化 6 中日見聞（四） 當代社会与文化 7 中日見聞（五） 當代社会与文化 8 中間講評 9 隨筆（一） 自然 10 隨筆（二） 自然 11 隨筆（三） 文学与文人 12 隨筆（四） 文学与文人 13 隨筆（五） 語言文化 14 隨筆（六） 語言文化 15 總括											
【履修要件】											
出席本課程的學生必須受過兩年以上的正規漢語訓練。 以漢語為母語的學生不可選修。 原則として、中文口語 1・中文口語 2 を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること（新HSK5級程度）。 中国語を母語とする学生は受講できない。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											



中国語学中国文学(外国語実習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（30％）および課題＋発表（70％）

**[教科書]**

上課時印發教材。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に指示

**（その他（オフィスアワー等））**

文学部3～4回生のみ対象とする。中国語学中国文学専修の学生を優先し、受講者数の上限は8名。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 王 ぎえん			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び中国語
題目		中文口語 2									
【授業の概要・目的】											
本課程為文學部本科生高級漢語口語練習課，課堂上全部使用漢語。要求學生們做好充分預習，上課時積極參與解讀和討論，在多種多樣的實際語言情景中練習和掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。希望學生們通過一年的學習，達到能通過新H S K（漢語水平考試）5級的水平。【請注意：由於KULASIS系統不接受中文簡體，課程說明暫用日文漢字。上課使用中文簡體字。】											
【到達目標】											
掌握得體的口語表達方式，提高口頭交際能力。											
【授業計画と内容】											
基本上平均兩到三週為一單元，圍繞一個主題，互問互答，各抒己見。 根據授課的實際情況，內容和進度有可能進行適當調整。											
1 導論 2 自我介紹（二） 提高形式 3 中日見聞（六） 歷史 4 中日見聞（七） 歷史 5 中日見聞（八） 當代社会与文化 6 中日見聞（九） 當代社会与文化 7 中日見聞（十） 當代社会与文化 8 中間講評 9 隨筆（七） 自然 10 隨筆（八） 自然 11 隨筆（九） 文学与文人 12 隨筆（十） 文学与文人 13 隨筆（十一） 語言文化 14 隨筆（十二） 語言文化 15 總括											
【履修要件】											
出席本課程的學生必須受過兩年以上的正規漢語訓練。 以漢語為母語的學生不可選修。 原則として、中文口語 1・中文口語 2 を履修済みであり、あわせて作文能力の基礎が確實であること（新HSK5級程度）。 中国語を母語とする学生は受講できない。											
----- 中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(外国語実習)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（30％）および課題＋発表（70％）

**[教科書]**

上課時印發教材。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に指示

**（その他（オフィスアワー等））**

文学部3～4回生のみ対象とする。中国語学中国文学専修の学生を優先し、受講者数の上限は8名。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系61

科目ナンバリング		U-LET11 41445 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(卒論演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 教授 緑川 英樹 文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		中国語学中国文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
卒業論文提出予定者を対象とし、(1)研究題目選択および先行研究の調査方法、(2)論文の組み立てに関する指導をおこなう。あわせて、中国語による論文要旨の書きかたについて指導する。											
【到達目標】											
卒業論文を執筆するにあたって守るべき規範意識を理解したうえで、自主的に課題を設定し、調査研究を経て言語化するための手続きを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>隔週で開講する。前期には、研究したい題目を各自で決めて、おおまかな着想を述べ、指導・助言を受ける。後期には、自らの卒業論文の内容について発表資料を準備して口頭発表をおこなったのち、指導・助言を受ける。</p> <p>後期の担当時には、(1)研究の主要論点・結論および引用原典を挙げた説明資料を配布し、出席者に分かりやすく説明し、それにするものとする。</p> <p>以上とあわせて、中国語による論文要旨の書きかたについての指導をおこなう。</p>											
【履修要件】											
中国語学中国文学専修学部学生に限る（3回生も出席するのが望ましい）。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（卒業年度の口頭発表による）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
卒業論文の題目選択は学生の自主性を重んじるので、取り組むべき課題を発見するにあたっての準備的調査をまず各自でおこなうこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
後期に口頭発表を担当する際には、必ず(1)発表用資料を必要部数準備するとともに、(2)中国語論文要旨の下書きも作っておくこと。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系62

科目ナンバリング		U-LET12 31530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明代絵画論研究									
[授業の概要・目的]											
<p>明代の絵画論の主要なものを読み進めることにより、明代の絵画論の特徴を知ると共に、明代の絵画論の中国絵画理論史上の位置づけを、特に「気」の観点から再考する。 最初は講義形式で始めるが、出席者の状況により、部分的に発表形式を取ることも考えている。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明代の絵画論の特徴を知る。</li> <li>・明代の絵画論の中国絵画理論史上の新しい位置づけを見いだす。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要の説明</li> <li>2 王履</li> <li>3～5 何良俊</li> <li>6～7 莫是龍</li> <li>8～10 王世貞</li> <li>11～13 李日華</li> <li>14～18 沈周</li> <li>19～24 文徵明</li> <li>25～29 董其昌</li> <li>30. フィードバック（方法は授業時に指示する）</li> </ol>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（50％）、期末レポート（50％）											
[教科書]											
授業中に指示する プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
展覧会、図録などで絵画作品についての知見を広める。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET12 31530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北朝正史の儒林伝を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なったことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。具体的には『魏書』『北齊書』『周書』である。</p> <p>北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度から『魏書』儒林伝を読み始めており、今年度はその途中からになる。ただし過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も問題ない。分野を問わず、様々な学生の履修に期待したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。</li> <li>・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。</li> <li>・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>原則として講義形式（北朝正史の儒林伝に対する教員作成の訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する）で進めるが、出席者にも適宜テキストを読解してもらったり、講義の内容にコメントしてもらったりする場面を設ける。</p> <p>1 ガイダンス 2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介 4～10 『魏書』儒林伝精読 （立伝者は計17名、そのうち今年度は「董徽」以降の5名を読む） 11～28 『北齊書』儒林伝精読（立伝者は計15名） 29・30 まとめ</p> <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

### 【教科書】

授業中に指示する  
教員作成のプリントを使用する。

### 【参考書等】

（参考書）

氣賀澤保規ほか『中国史書入門 現代語訳 北齊書』（勉誠出版,2021年）ISBN:978-4-585-29612-6  
（『北齊書』の邦訳で、儒林伝序の邦訳を含む。北齊を含む北朝の歴史を概観できる。）  
上記の書籍の他、参考書籍は数多いので、授業中に紹介していく。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東北大学大学院文学研究科 教授 三浦 秀一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明代儒仏道三教交渉史									
【授業の概要・目的】											
この授業では明代における儒仏道三教交渉の歴史的展開をあとづける。明学の精華とされる陽明学が仏道両教、とりわけ禅仏教と親和的な思想内容を有することは周知のとおりだが、そうした思想が明朝正徳嘉靖期に登場するにいたる思想史的背景や、陽明後学の活動と明末における仏道両教との関連性などについて、科挙制度の普及や出版活動の興隆というこの時代の社会や文化を特徴づける要素にも触れながら考察してゆきたい。											
【到達目標】											
明代思想についての歴史的理解を深めるとともに、様々な状況に置かれた当時の人々の思考を追跡することで、多面的・多角的に「人間」を見る視野を育む。											
【授業計画と内容】											
状況によっては内容には変更の可能性あり。 第1回：導論（研究史の概観） 第2回：太祖朱元璋と明初の儒臣 第3回：宋濂から張宇初へ 第4回：祝允明とその周辺の人士 第5回：青年期の王守仁 第6回：薛蕙・王道と羅欽順 第7回：嘉靖後半の陽明後学 第8回：万表と趙貞吉 第9回：楊慎と何良俊 第10回：王世貞から胡応麟へ 第11回：耿定向から焦竑へ 第12回：屠隆と馮夢禎 第13回：彭好古と伍守陽 第14回：楊起元・周汝登・鄒元標 第15回：まとめ フィードバックの仕方については授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											



中国哲学史(特殊講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（50%）およびレポート（50%）

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業中に指示する。

**（その他（オフィスアワー等））**

開講日時は5月初旬にKULASISを通して連絡の予定。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍目録法									
【授業の概要・目的】											
漢籍目録の作成要領を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
各種の漢籍目録（データベースを含む）の構造や内容を読み取る力をつけることにより、目的や用途に応じて必要な漢籍をすぐに検索できるようになる。											
【授業計画と内容】											
漢籍の目録法、書誌情報の採取について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることがあり得る。 第1回 ガイダンス 第2回 漢籍の定義（漢籍と目録の関係） 第3回 カード作成の目的（書誌の基本） 第4回 書名（表題の確定） 第5回 書名（合刻と合綴） 第6回 書名（漢籍の同定） 第7回 巻数（書誌の特徴） 第8回 撰者（書籍への関与の形態） 第9回 撰者（書籍に関与した人物の情報） 第10回 鈔刻（複製の手法） 第11回 鈔刻（刊行年と出版者） 第12回 鈔刻（底本の表示） 第13回 鈔刻（特殊な情報） 第14回 叢書・増出・地志カードの作成 第15回 まとめ フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。 評価の6割はレポート、4割は平常点による。 レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

清水茂 『中国目録学』 (筑摩書房) ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』 (白帝社) ISBN:9784891746346

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター編集 『漢籍目録 カードのとりかた』 (朋友書店) ISBN:9784892811067

(関連URL)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/toho/html/top.html>(東方学デジタル図書館)

[https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\\_download\\_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80\(%E8%B3%87%E6%96%99\).pdf](https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/5592/2006%E6%BC%A2%E7%B1%8D%E7%9B%AE%E9%8C%B2%E5%85%A5%E9%96%80(%E8%B3%87%E6%96%99).pdf)(漢籍目録入門(資料)(中里見敬氏))

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/130672/1/kogusho.pdf>(工具書について 漢籍の整理 (永田知之))

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106\\_1493/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/106/0/106_1493/_pdf/-char/ja)(漢籍整理備忘録 中国の古典籍・古文書の理解のために (小島浩之氏))

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		漢籍分類法									
【授業の概要・目的】											
四部分類法を理解することを通じて、中国学の基本構造を把握する。											
【到達目標】											
書物の分類を通じて漢字文化の特徴を理解することにより、西洋近代に由来する学術の枠組みを超えた幅広い視野を養う。											
【授業計画と内容】											
『京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧』に基づき、分類法について解説すると共に、漢籍に関わる諸事象を紹介する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。											
第1回 ガイダンス											
第2回 経部・概説											
第3回 経部・五経等（経注疏合刻類～春秋類）											
第4回 経部・四書等（四書類～小学類）											
第5回 史部・概説											
第6回 史部・叙述形式（正史類～載記類）											
第7回 史部・制度、伝記、地理（詔令奏議類～政書類）											
第8回 史部・資料、史論（書目類～史評類）											
第9回 子部・概説											
第10回 子部・思想、技術（儒家類～術数類）											
第11回 子部・趣味、宗教（芸術類～道家類）											
第12回 集部・概説											
第13回 集部・各論											
第14回 叢書部											
第15回 まとめ											
フィードバックの方法については、授業時に指示する。											
【履修要件】											
特になし											
-----中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く-----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。  
評価の6割はレポート、4割は平常点による。  
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

### [教科書]

プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）

清水茂 『中国目録学』（筑摩書房）ISBN:4480836055

井波陵一 『知の座標 中国目録学』（白帝社）ISBN:9784891746346

吉川幸次郎 『吉川幸次郎遺稿集 第1巻』（筑摩書房）ISBN:4480746412

程千帆・徐有富著、向嶋成美・大橋賢一・樋口泰裕・渡邊大訳 『中国古典学への招待 目録学入門』（研文出版）ISBN:9784876364091

（関連URL）

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>(全国漢籍データベース)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/65024>(京都大学人文科学研究所漢籍分類一覧：部-類-属-目-例)

<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/refguide/13216>(漢籍の探し方（大西賢人氏）)

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。  
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。  
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系67

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝から見た隋の仏教：『続高僧伝』講読（一）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進めるが、進捗状況に応じて柔軟に対応する。講読にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳担当を御願います。それが難しい場合はレポート提出とする。</p> <p>前期は講義では主に北朝後期から隋代の僧をとりあげ、北周の廃仏と隋文帝の仏教復興政策とインド・西域の仏教との関係について考察する。講読は前年度に引き続き隋の訳経僧、闍那崛多の伝から読み進める。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。  二、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。  三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。  四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。  二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。  三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書  第2回：『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明  第3回：『続高僧伝』講義 隋代の訳経僧：那連提黎耶舎・闍那崛多・</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

達摩笈多・彦琮

- 第4回：『続高僧伝』講読（1）
- 第5回：『続高僧伝』講義：曇延
- 第6回：『続高僧伝』講読（2）
- 第7回：『続高僧伝』講義：曇遷
- 第8回：『続高僧伝』講読（3）
- 第9回：『続高僧伝』講義：浄影寺慧遠
- 第10回：『続高僧伝』講読（4）
- 第11回：『続高僧伝』講義：靈裕
- 第12回：『続高僧伝』講読（5）
- 第13回：『続高僧伝』講義：智顛
- 第14回：『続高僧伝』講読（6）
- 第15回：『続高僧伝』講義：志念

### 【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況または小レポート）100%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

中国哲学史(特殊講義)(3)へ続く

中国哲学史(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		隋代の寺院と僧伝：『続高僧伝』講読（二）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。進捗状況に応じて柔軟に対応する。主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>講読にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳担当を御願います。それが難しい場合はレポート提出とする。講読は前期に引きつづいて訳経篇を読み進める。</p> <p>後期は講義では主に隋代の代表的な寺院をテーマとする。北周の廃仏をうけた後の隋代の寺院の建立と隋文帝の仏教復興政策との関係について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な寺院を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p>											
技能面											
<p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A Tなどの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期の内容を簡単に復習し、後期の内容について説明する。</p> <p>第2回：『続高僧伝』講義：大興善寺・東都上林園翻経館</p> <p>第3回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第4回：『続高僧伝』講義：禅定寺・大禅定寺</p> <p>第5回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第6回：『続高僧伝』講義：蒲州栖巖寺・仁寿舍利塔事業</p> <p>第7回：『続高僧伝』講読（3）</p> <p>第8回：『続高僧伝』講義：煬帝と江南仏教（長安日嚴寺・江都・東都慧日道場）</p> <p>第9回：『続高僧伝』講読（4）</p> <p>第10回：『続高僧伝』講義：隋長安の尼寺</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

- 第11回：『続高僧伝』講読（5）  
第12回：『続高僧伝』講義：天台山国清寺・荊州玉泉寺  
第13回：『続高僧伝』講読（6）  
第14回：『続高僧伝』講義：その他主な長安寺院  
第15回：『続高僧伝』講読（7）

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況・小レポート）100%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けませんが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『金剛般若経』から漢訳仏典を学ぶ(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>『金剛般若経(こんごう・はんにゃきょう)』はインド中国で最もよく読まれた大乘般若経である。サンスクリット語原典には異なる数種があり、また中国で訳された漢訳にも複数種類ある。岩波文庫に収める漢訳とサンスクリット語原典が唯一のものではないし、岩波文庫の和訳も問題を含む箇所がある。この授業では、インド中国の大乘佛教を知るための素材として、『金剛般若経』のサンスクリット語原典・漢訳数種・チベット語訳を比較しながら、細かな相違を適確に理解する読解訓練を行いながら、特に漢訳諸本の訳語のニュアンス(含蓄)にどのような違いがあるかを、原文に即して理解できるようにすることを目指す。</p> <p>またその基となる基本知識として、佛教漢語の特色・訳語(漢訳)の特異性・大蔵経の使い方・佛教漢語の意味を確定するために行う常套的手法も身に付けるようにする。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大正大蔵経の使用するときの注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：『金剛般若経』の思想的特徴と言語的特徴</p> <p>第4回：『金剛般若経』の書誌(原典・前近代の諸訳・注釈・主要研究)</p> <p>第5回：五世紀初頭の鳩摩羅什訳『金剛般若波羅蜜経』精読(1)</p> <p>第6回：『同』精読(2)</p> <p>第7回：『同』精読(3)</p> <p>第8回：『同』精読(4)</p> <p>第9回：『同』精読(5)</p> <p>第10回：『同』精読(6)</p> <p>第11回：六世紀前半の菩提流支訳『金剛般若波羅蜜経』の特徴(1)</p> <p>第12回：六世紀前半の菩提流支訳『金剛般若波羅蜜経』の特徴(2)-宋思溪版の特徴</p> <p>第13回：六世紀後半の真諦訳『金剛般若波羅蜜経』の特徴</p> <p>第14回：六世紀末の笈多訳『金剛能断般若波羅蜜経』の読解不可能性</p> <p>第15回：前期の総括</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### [教科書]

教科書は使用しません。  
授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。  
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### [参考書等]

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店、2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として）

中村元・紀野一義 『般若心経 金剛般若経』（岩波文庫、岩波書店）ISBN:978-4003330319（鳩摩羅什の漢訳とサンスクリット語原典についての訳注）

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。  
特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習：  
配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を必ず準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。  
授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。  
授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『金剛般若経』から漢訳仏典を学ぶ(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>『金剛般若経(こんごう・はんによきょう)』はインド中国で最もよく読まれた大乘般若経である。サンスクリット語原典には異なる数種があり、また中国で訳された漢訳にも複数種類ある。岩波文庫に収める漢訳とサンスクリット語原典が唯一のものではないし、岩波文庫の和訳も問題を含む箇所がある。この授業では、インド中国の大乘佛教を知るための素材として、『金剛般若経』のサンスクリット語原典・漢訳数種・チベット語訳を比較しながら、細かな相違を適確に理解する読解訓練を行いながら、特に漢訳諸本の訳語のニュアンス(含蓄)にどのような違いがあるかを、原文に即して理解できるようにすることを目指す。</p> <p>またその基となる基本知識として、佛教漢語の特色・訳語(漢訳)の特異性・大蔵経の使い方・佛教漢語の意味を確定するために行う常套的手法も身に付けるようにする。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期のまとめ。無著菩薩造・達磨笈多訳『金剛般若論』中の達磨笈多訳経本</p> <p>第2回：七世紀中期の玄奘訳『能断金剛般若波羅蜜経』の特徴</p> <p>第3回：七世紀後期の玄奘訳『大般若経』の「能断金剛分」の特徴。玄奘両訳の関係</p> <p>第4回：八世紀初頭の義浄訳『金剛能断般若波羅蜜経』の特徴</p> <p>第5回：サンスクリット語原典中の相違</p> <p>第6回：サンスクリット語原典と漢訳諸本の相違</p> <p>第7回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(1)</p> <p>第8回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(2)</p> <p>第9回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(3)</p> <p>第10回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(4)</p> <p>第11回：チベット語訳から知られる特色</p> <p>第12回：『金剛般若経』の登場する漢語の佛教説話(1)</p> <p>第13回：『金剛般若経』の登場する漢語の佛教説話(2)</p> <p>第14回：『金剛般若経』の登場する漢語の佛教説話(3)</p> <p>第15回：後期の総括および通年のまとめ</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

中村元・紀野一義 『般若心経 金剛般若経』（岩波文庫、岩波書店）ISBN:978-4003330319（鳩摩羅什の漢訳とサンスクリット語原典についての訳注）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系71

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『困学紀聞注』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>古典文献の講読を通して、漢文読解力を養うと共に、中国文化への理解を深める。そのために『困学紀聞注』を精読する。授業は、訳注を作らず、授業の場で適宜一条ずつ担当をしてもらい訓読ならびに出典などの報告をしてもらう。出典に確実に当たることを重視し、本文の文章や語句などすべての典拠、用例について、もとの書物を調べる作業を重視する。今年は『困学紀聞注』（翁注困学紀聞）の巻十、諸子の部分を読む。</p>											
【到達目標】											
<p>漢文を精読することにより、漢文読解力を養成する。さらに、出典を調べながら漢籍を読むことができるようになる。また、さまざまなジャンルの議論を読むことにより、中国の書物についての幅広い知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要、授業の進め方のガイダンス</li> <li>2. 漢志...条～家語...条</li> <li>3. 皇覧...条～荀子...条</li> <li>4. 成相...条～勸学...条</li> <li>5. 河間...条～法言...条</li> <li>6. 老泉...条～詩失...条</li> <li>7. 封禅...条～張元素...条</li> <li>8. 戎狄...条～無功...条</li> <li>9. 李百薬...条～杜淹...条</li> <li>10. 王無功...条</li> <li>11. 世説...条～傅子...条</li> <li>12. 管仲...条～晁景迂...条</li> <li>13. 老子...条～首章...条</li> <li>14. 惟無...条～文子者...条</li> <li>15. 文子者...条（続き）</li> <li>16. 文子曰...条～孤父...条</li> <li>17. 東坡...条～大宗師...条</li> <li>18. 天運...条～荊公...条</li> <li>19. 呂吉甫...条～莊子...条</li> <li>20. 庖丁...条～齊物論...条</li> <li>21. 莊子逸篇～游鳧...条</li> <li>22. 挿桃枝...条～善卷...条</li> <li>23. 廉者...条～市上...条</li> <li>24. 亡羊...条～梁君...条</li> <li>25. 人而...条～叔文...条</li> <li>26. 叔文...条（続き）</li> </ol>											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習)(2)

27. 太平御覽...条～戸子曰舜...条  
28. 程子...条～韓子曰殷...条  
29. 五蠹...条～必恃...条  
30. フィードバック（詳細は授業時に説明する）

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点による。（漢文読解、典拠の調査等を総合的に判断する。訳注作成ならびに毎時間の発表が100%。）

### 【教科書】

テキストはコピーして配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

綿密な下調べが必要です。

### （その他（オフィスアワー等））

内容の項目に書いたように、典拠や用例については紙のテキストに必ず当たるという作業を重視するので、参加者には毎時間、相当程度の時間にわたる予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系72

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		阮元の文章を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>阮元(1764-1849)は言うまでもなく清朝考証学を代表する学者である。この授業では、彼の著作『ケン経室集』(ケン:研+手)の中から、経学を中心として思想に関わる内容の文章を選読する。文章のジャンルは序・論・跋・書など多岐にわたる。</p> <p>多彩なテーマやジャンルの文章を読むことは、古典読解能力を高めるとともに、その考証の手法や表現の方法を学ぶことをも可能にするであろう。そして同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に阮元を離れてでも、それについて検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶことになる。また文章のジャンルも特定のものにこだわらない。そのため様々な専攻の学生の出席を期待する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国古典文献を、典拠や用例を調べ、その原典にあたりながら正確に読解できる。</li> <li>・読解の成果を自然な日本語に訳し、また適切な注釈を附すことで、訳注の形で提示する能力を身につける。</li> <li>・文献に披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。</li> <li>・読解内容に対する阮元以外の考証をも検討することで、同一テーマに対する多角的な視野を持つ力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。読む文章は教員が適宜選択するが、履修者の興味関心を見て決定する予定である。</p> <p>1 ガイダンス 2 ~ 30 阮元の文章を読む</p> <p>例：易書不尽言言不尽意説、釈心、擬国史儒林伝序、刻七経孟子考文並補遺序          曾子十篇注釈序、孝経解、論語解、論語一貫説、大学格物説、明堂論          詩十月之交四篇属幽王説、進退維谷解、王伯申経義述聞序、春秋公羊通義序          与臧拜経庸書</p> <p>フィードバックの方法は授業時に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習) (2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

### [教科書]

授業中に指示する  
テキストはコピーして配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

演習は何より学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相応の予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系73

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系74

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系75

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>慶應義塾大学蔵の中国写本の影印に基づき、子罕篇の訳注を作成する。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。</li> <li>・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。</li> <li>・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>『論語義疏』子罕篇の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 ガイダンス</li> <li>・第2回 「牢曰子云」章</li> <li>・第3回 「子曰吾有知乎哉」章</li> <li>・第4回 「子曰鳳鳥不至」章</li> <li>・第5回 「子見齊衰者」章</li> <li>・第6回・7回 「顔淵喟然歎曰」章</li> <li>・第8回－10回 「子疾病」章</li> <li>・第11回 「子曰吾自衛反魯」章</li> <li>・第12回 「子曰出則事公卿」章</li> <li>・第13回 「子在川上」章</li> <li>・第14回 「子曰吾未見好德」章</li> <li>・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する）</li> </ul>											
【履修要件】											
中級程度の中国語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
必要なテキストは教室にて配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する  
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。  
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

### [授業外学修(予習・復習)等]

必ず予習した上で、授業に出席すること。

### (その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』子路篇を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>慶應義塾大学蔵の中国写本の影印に基づき、子罕篇の訳注を作成する。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。</li> <li>・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。</li> <li>・上記二点に基づき、訳注稿を完成させる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>『論語義疏』子路篇の訳注稿を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 ガイダンス</li> <li>・第2回 「子曰譬如為山」章</li> <li>・第3回 「子曰語之而不惰者」章</li> <li>・第4回 「子謂顔淵曰惜乎」章</li> <li>・第5回 「子曰苗而不秀者」章</li> <li>・第6回 「子曰後生可畏」章</li> <li>・第7回・8回 「子曰法語之言」章</li> <li>・第9回 「子曰主忠信」章</li> <li>・第10回 「子曰三軍可奪帥也」章</li> <li>・第11回・12回 「子曰衣敝」章</li> <li>・第13回 「子曰歲寒」章</li> <li>・第14回 「子曰知者不惑」章</li> <li>・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する）</li> </ul>											
[履修要件]											
中級程度の中国語を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
[教科書]											
授業中に指示する 必要なテキストはPDFにて配布する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

---

[参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。  
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系77

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		呉志忠「附攷序」「四書章句附攷」巻1「大学」、「四書章句集注定本辨」									
【授業の概要・目的】											
<p>朱熹『大学章句』は60歳でひとまず脱稿するが、朱熹はその後も改訂を繰り返し、その改訂作業は死の3日前にまで及んだ。今日に伝わる『四書章句集注』には興国本と淳祐本の2系統があり、そのいずれもが朱熹による幾多の改訂を経た最終稿（晩年絶筆）であると見なされている。ただ両本には重大な点で異同があり、その異同を含んだまま両本をともに晩年絶筆本と見なすことには問題が有ろう。また呉志忠は両本のうち淳祐本が勝るとしてこれを底本としたため、呉志忠校本に拠った芸文印書館本、中文出版社本、中華書局本（新編諸子集成本）は、いずれも淳祐本系統である。ただ淳祐本を採った呉志忠の判断の妥当性も、改めて検討する必要がある。</p> <p>授業ではこのような問題意識のもとに、呉志忠の「附攷序」「四書章句附攷」巻1「大学」、「四書章句集注定本辨」を精読する。</p>											
【到達目標】											
資料の精読を通して校勘学の基礎を修得するとともに、『大学章句』の成立過程という、朱子学の基礎的問題に対する知見を深め、最終的には興国本と淳祐本のいずれを晩年絶筆と見なすべきかについても、一定の見通しを得たいと考える。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。          第2回～第15回 資料講読。          フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書）          授業中に紹介する</p>											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

---

**【授業外学修（予習・復習）等】**

呉志忠が指摘する諸本の異同につき、興国本系統と淳祐本系統に分けて異同状況を整理するとともに、「経筵講義」（『朱文公文集』巻15）所引『大学章句』との異同には特に留意する必要がある

**（その他（オフィスアワー等））**

この授業は全回オンラインにより実施する。資料の配付方法等については初回授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 東洋文化学系78

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 中 純夫			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		呉志忠「附攷序」「四書章句附攷」巻1「大学」、「四書章句集注定本辨」									
【授業の概要・目的】											
<p>朱熹『大学章句』は60歳でひとまず脱稿するが、朱熹はその後も改訂を繰り返し、その改訂作業は死の3日前にまで及んだ。今日に伝わる『四書章句集注』には興国本と淳祐本の2系統があり、そのいずれもが朱熹による幾多の改訂を経た最終稿（晩年絶筆）であると見なされている。ただ両本には重大な点で異同があり、その異同を含んだまま両本をともに晩年絶筆本と見なすことには問題が有ろう。また呉志忠は両本のうち淳祐本が勝るとしてこれを底本としたため、呉志忠校本に拠った芸文印書館本、中文出版社本、中華書局本（新編諸子集成本）は、いずれも淳祐本系統である。ただ淳祐本を採った呉志忠の判断の妥当性も、改めて検討する必要がある。</p> <p>授業ではこのような問題意識のもとに、呉志忠の「附攷序」「四書章句附攷」巻1「大学」、「四書章句集注定本辨」を精読する。</p>											
【到達目標】											
資料の精読を通して校勘学の基礎を修得するとともに、『大学章句』の成立過程という、朱子学の基礎的問題に対する知見を深め、最終的には興国本と淳祐本のいずれを晩年絶筆と見なすべきかについても、一定の見通しを得たいと考える。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 資料解説、関連資料紹介、担当者の割り振り。 第2回～第15回 資料講読。</p> <p>フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
漢文読解力、出典調査能力、論理的思考力などを総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習)(2)

---

### [授業外学修（予習・復習）等]

呉志忠が指摘する諸本の異同につき、興国本系統と淳祐本系統に分けて異同状況を整理するとともに、「経筵講義」（『朱文公文集』巻15）所引『大学章句』との異同には特に留意する必要がある

### （その他（オフィスアワー等））

この授業は全回オンラインにより実施する。資料の配付方法等については初回授業時に指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 21550 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『文選』の文章を読む(司馬遷による書簡「報任少卿書」)									
[授業の概要・目的]											
<p>漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることを最大の目的とする。最初は漢文とその読み方について概説をし、またテキストとなる『文選』について紹介する(主として前期)。</p> <p>その上で、実際の『文選』収録の文章として、司馬遷「報任少卿書(任少卿に報ずる書=書簡)」を精読する(主として前期後半~後期)。司馬遷は『史記』の著者として、名前を知っている人も多いであろう。また『文選』に附された唐の李善による注釈もあわせて読むことで、漢文読解における注釈の意義について考えてもらう。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、分野を問わず様々な興味関心から、多くの学生の参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。</li> <li>2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。</li> <li>3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。</li> <li>4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。</li> <li>5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>最初のうちは講義形式で進め、時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう。</p> <p>司馬遷「報任少卿書」を読む段階に入ってから、毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2・3 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳</li> <li>4・5 漢文の読み方：典故について</li> <li>6・7 漢文の読み方：注釈について</li> <li>8 『文選』について：成立と受容、李善注と五臣注</li> <li>9~30 司馬遷「報任少卿書」の読解と討議</li> </ol> <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 中国哲学史(講読)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(講読)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

### 【教科書】

授業中に指示する  
テキストはコピーして配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		パーシュパタ研究									
【授業の概要・目的】											
シヴァ教の最古の宗教集団であるパーシュパタ派については、近年関連する新しい文献の発見・出版により、研究が大きく進展している。この授業では、パーシュパタ派の現存最古の教義書であるパーシュパタースートラとそのカウンディニャによる注釈を取り上げ、最新の研究成果に基づき、この聖典の成立過程、スートラと注釈の関係、ヴェーダの宗教文化からパーシュパタ派への連続性、シヴァ教全般におけるこの宗派の位置付けなどを再考することを目的とする。											
【到達目標】											
宗教的な教義書とその注釈の文体に慣れると同時に、シヴァ信仰の視点から初期ヒンドゥー教について理解を深めることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 パーシュパタ派の概論 第2回 近年の研究動向：新出文献におけるパーシュパタ関連の記述および関連碑文 第3回 パーシュパタ・スートラ全体の概観 第4～6回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第1章の概観 第7～10回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第2章の精読と解説 第11～14回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第3章の精読と解説 第15回 総括											
【履修要件】											
基礎的なサンスクリット読解能力											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
授業で扱う資料はアップロードし、学期の初めにその情報を告知する。主たる校訂版および英訳は以下のとおりであるが、授業ではできる限り準備中の新しい校訂テキストを使用する。 Pasupata Sutras with Pancharthabhashya of Kaundinya. Edited by R. Ananthakrishna Sastri. Trivandrum Sanskrit Series, CXLIII. The Oriental #8232Manuscripts Library of the University of Travancore, Trivandrum, 1940. Hara Minoru, Materials for the study of Pasupata Saivism. Unpublished PhD thesis, Harvard University, 1966.											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## インド古典学(特殊講義)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

Hara Minoru, Pasupata Studies. Edited by Jun Takashima. Publications of the de Nobile Research Library, Vienna, 2002. Rep.: Motilal Banarsidass, Delhi.

他の研究書・論文は授業中に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

テキストを精読する回には予習(訳の準備)が必要となる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系81

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA , Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian Aesthetics									
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## インド古典学(特殊講義)(2)

### [成績評価の方法・観点]

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

Introduced during class

### [授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系82

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Esoteric Yoga									
【授業の概要・目的】											
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kujjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.											
【成績評価の方法・観点】											
In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 高橋 健二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代サンスクリット文献における落穂拾い									
【授業の概要・目的】											
<p>unchavrṭtiとは、田畑の落穂を拾って生活すること、あるいはそのようにして生活する者を指す。古代南アジア叙事詩『マハーバーラタ』には、落穂拾いを実践するバラモンについて興味深い物語が散見され、Alf Hiltebeitelは『マハーバーラタ』は、落穂拾いに特別な関心を持っていたバラモン集団によって「書かれた」ものであると推察している。『マハーバーラタ』の編纂と落穂拾いの実践の関係については不明な点が多いが、『マハーバーラタ』編纂の後期の段階で前後の文脈の橋渡しをするために挿入されたと思われるような箇所において、落穂拾いを実践する者が登場するのは事実である。</p> <p>本講義では、『マハーバーラタ』において落穂拾いの実践がどのように捉えられているのか、また『マハーバーラタ』の文脈において落穂拾いで生活する者の物語がどのような役割を担っていたのかを検証するために、『マハーバーラタ』第12巻340-353章に見られるUnchavrittīyakhyaṇa「落穂拾いで生活する者の物語」を講読する。</p> <p>また、『マハーバーラタ』の言語は、「叙事詩サンスクリット」(Epic Sanskrit)とも呼ばれ、パーニニ文法に基づいた、いわゆる古典サンスクリット語とは異なり、簡易化された語形や、韻律的制約のために変形された語形が多く見られる。本講義では、工具書等を用いつつ、韻律、言語の通時的もしくは共時的変化といった観点から、叙事詩文献を読解する方法を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義は、以下の三つを到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・叙事詩文献について基本的な知識を得ること。</li> <li>・古代南アジアにおける遁世観や苦行観について、一次文献・二次文献を用いつつ、幅広い視点から考察できるようになること。</li> <li>・叙事詩文献の言語的特性を理解し、工具書等を用いて正確に読解する能力を習得すること。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回(講義) 古代インド叙事詩『マハーバーラタ』についての概観  第2回(講義) 『マハーバーラタ』第12巻の研究史  第3回(講義) 法典文献の概観ならびに法典文献における落穂拾いの規定について  第4回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.340章  第5回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.341章  第6回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.342章  第7回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.343章  第8回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.344章  第9回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.345章  第10回(講読) 『マハーバーラタ』「落穂拾いで生活する者の物語」12.346章</p>											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## インド古典学(特殊講義)(2)

- 第11回（講読）『マハーバーラタ』 「落穂拾いで生活する者の物語」 12.347章  
第12回（講読）『マハーバーラタ』 「落穂拾いで生活する者の物語」 12.348章  
第13回（講読）『マハーバーラタ』 「落穂拾いで生活する者の物語」 12.349章  
第14回（講読）『マハーバーラタ』 「落穂拾いで生活する者の物語」 12.350-351章  
第15回（講読）『マハーバーラタ』 「落穂拾いで生活する者の物語」 12.352-353章

### 【履修要件】

サンスクリット語基礎文法既習者。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（出席、予復習、授業中の発言）。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

講読箇所の予習を必要とする。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は授業後に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系84

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェーダ語を読む力を身につける。</li> <li>・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。</li> <li>・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。</li> <li>・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hymn 1（7週間）</li> <li>2. Hymn 2（7週間）</li> <li>3. フィードバックなど（1週間）</li> </ol>											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系85

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェーダ語を読む力を身につける。</li> <li>・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。</li> <li>・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。</li> <li>・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hymn 1（7週間）</li> <li>2. Hymn 2（7週間）</li> <li>3. フィードバックなど（1週間）</li> </ol>											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド古典演劇									
【授業の概要・目的】											
<p>インドの古典演劇は、伝統的な演劇論書類によると、10の正劇と10の副劇に分類される。この授業では、それらの中で、1幕または2幕程度の短い演劇に属するprahasana, vyayoga, bhanaという3種を取り上げ、それぞれから各一つの戯曲作品を講読する。インドの古典劇では、登場人物はその性別、社会的地位、役柄に従い、サンスクリットと複数のプラークリット(中期インド・アリア語)のいずれかを話す。そのため戯曲作品の講読は、両言語に慣れるために有用である。また会話の散文と詩的描写などに使われる詩節が混在するため、散文と韻文両方の文体に親しむことができる。さらに特にprahasanaとbhanaの作品はしばしば社会風刺を含むため、作品の背景となっている社会への批判的な態度を学ぶこともできる。</p>											
【到達目標】											
<p>サンスクリットおよびプラークリットの読解能力を養うと同時に、インドの演劇伝統に関する知識を身に付けることができる。さらに戯曲に反映しているインド社会の様相を学ぶことができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インド古典劇の種類に関する概説、プラークリットの文法書・辞書等のツールの説明  第2～5回 prahasana劇の代表作であるMattavilasaの講読  第6～9回 vyayoga劇の講読  第10～14回 bhana劇の講読  第15回 総括</p>											
【履修要件】											
基礎的なサンスクリット読解能力(プラークリット読解能力は不要)											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
授業中に扱うテキストについては、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習(訳の準備)が必要となる。プラークリットの部分は通常サンスクリットのチャーター(サンスクリット訳)が付随するので、訳の準備にはそれを利用することができる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系87

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		The Bhusunda narrative in the Moksopaya										
【授業の概要・目的】												
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Bhusunda chapters of the Nirvanaprakarana of the Moksopaya, a Kashmirian philosophical narrative written in the 10th cent. CE. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to grammatical, aesthetic and philosophical themes that are exemplified with narratives.												
【到達目標】												
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit narratives composed with philosophical-aesthetic themes. Students will learn: 1) how to interpret the narratives according to the criteria that guided the original author, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.												
【授業計画と内容】												
week 1: chapter 15a, the description of Bhusunda's hermitage week 2: chapter 15b, cont. week 3: chapter 16a: the meeting with Bhusunda week 4: chapter 16b: cont. week 5: chapter 16c: Vasishtha petitions Bhusunda week 6: chapter 17: characterization of Bhusunda week 7: chapter 18a: Bhusunda teaches Vasishtha about the "Dance of the Mother Goddesses" week 8: chapter 18b: cont. week 9: chapter 18c: cont. week 10: chapter 18c: cont. week 11: chapter 19a: the meeting with Candaka week 12: chapter 19b: cont. week 13: chapter 20: Candaka's question week 14: chapter 21a: Bhusunda's reply week 15: chapter 21b: Bhusunda's true nature												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
participation in class. preparation and translation in class.												
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----												

インド古典学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Preparation of material before each week's reading.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		The Bhusunda narrative in the Moksopaya										
【授業の概要・目的】												
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Bhusunda chapters of the Nirvanaprakarana of the Moksopaya, a Kashmirian philosophical narrative written in the 10th cent. CE. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to grammatical, aesthetic and philosophical themes that are exemplified with narratives.												
【到達目標】												
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit narratives composed with philosophical-aesthetic themes. Students will learn: 1) how to interpret the narratives according to the criteria that guided the original author, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.												
【授業計画と内容】												
week 1: chapter 22a, the description of long lived persons week 2: chapter 22b, cont. week 3: chapter 23a: the description of the past week 4: chapter 23b: cont. week 5: chapter 24a: refutation of wrong views week 6: chapter 24b: cont. week 7: chapter 25a: vital energy week 8: chapter 25b: cont. week 9: chapter 26a: breath and yogic trance week 10: chapter 26b: cont. week 11: chapter 26c: cont. week 12: chapter 26d: cont. week 13: chapter 27: the causes of a long life week 14: chapter 21a: cont. week 15: chapter 28: the end of the Bhusunda narrative												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
participation in class. preparation and translation in class.												
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----												

インド古典学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Preparation of material before each week's reading.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まる。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭に関する記述）の原典講読を行う。参加者が事前に準備した訳を発表し、言語学および祭式・文化的側面から考察を行う。</p>											
【履修要件】											
サンスクリット基礎文法の既習者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。											
【教科書】											
教材を授業時に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習を必要とする。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系90

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Gandhari and Indic Linguistics									
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to Gandhari language and historical grammar of Middle Indic languages. Along with language and literature, the special script for writing Gandhari texts, namely Kharosthi script will be learnt as well. The reading materials include Khotan Dharmapada and inscription of King Senavarma. Therefore, this course provides glimpses into development of early Buddhism and early history of India as well as deposit of Buddha ' s relics.											
[到達目標]											
The participants will learn Kharosthi script, Gandhari language and historical grammar of Indic linguistics.											
[授業計画と内容]											
Week #01 Introduction: From Old-Indo-Aryan to Middle Indic Week #02 Introduction: Gandhara, Kharosthi script and Gandhari corpus Week #03 Introduction: Learn Kharosthi script and bilingual coins Week #04 Grammar: Historical grammar of Middle Indic Week #05 to #08 Reading: Dharmapada from Khotan Week #09 to #14 Reading: Senavarma inscription Week #15 Feedback											
[履修要件]											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
[成績評価の方法・観点]											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
<a href="https://gandhari.org">https://gandhari.org</a> (Text, dictionary, bibliography)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系91

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.											
【到達目標】											
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Discovery and History</p> <p>Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1</p> <p>Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2</p> <p>Week #04 Script and Manuscripts</p> <p>Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present)</p> <p>Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive)</p> <p>Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite)</p> <p>Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga</p> <p>Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya</p> <p>Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka</p> <p>Week #12 Tocharian A: grammar</p> <p>Week #13 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #14 Tocharian A: reading Vinaya</p> <p>Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. #160Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

### [授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系92

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian (Paninian) Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to traditional Indian grammar represented by the grammarian Panini. The course content will cover history of Indian grammatical traditions, system of Paninian grammar and its influence. Reading materials include Panini ' s grammar Astadhyayi, commentaries on Astadhyayi as well as Pali, Prakrit and Buddhist grammar developed from Astadhyayi.											
【到達目標】											
The participants will learn the logic and terminology of Paninian grammar, grammatical operations as well as other grammatical traditions based on Astadhyayi.											
【授業計画と内容】											
<p>Week #01 Introduction: Why should we study Indian grammar?</p> <p>Week #02 Introduction: History of scholarship and bibliography</p> <p>Week #03 Introduction: History, influence and terminology of Paninian grammar</p> <p>Week #04 Introduction: Grammatical operations (pratyahara, pratyaya, agama, declension, conjugation)</p> <p>Week #05 Reading: Sarasiddhantakaumudi of Varadaraja (17th cent., Devasthali); Siddhantakaumudi of Bhattoji Diksita (16th-17th cent., Chandra Vasu)</p> <p>Week #06 Reading: Sarasiddhantakaumudi; Siddhantakaumudi</p> <p>Week #07 Astadhyayi (5th-4th cent. BCE, Katre)</p> <p>Week #08 Astadhyayi (Katre)</p> <p>Week #09 Astadhyayi in RV commentary (Sayana 14th cent.) and Kavya commentary (Meghaduta, Mallinatha 14th-15th cent.)</p> <p>Week #10 Kasika of Jayaditya &amp; Vamana (7th cent., Ojihara &amp; Renou)</p> <p>Week #11 Mahabhasya of Patanjali (2nd cent. BCE), Pradipa of Kaiyata (10th-11th cent.) and Uddyota of Nagesa (18th cent., Joshi &amp; Roodbergen)</p> <p>Week #12 Pali grammar: Saddaniti of Aggavamsa (12th cent., Smith)</p> <p>Week #13 Prakrit grammar: Prakrtaprakasa of Vararuci (3rd-4th cent., Cowell)</p> <p>Week #14 Buddhist grammar: Candravyakarana of Candragomin (7th cent., Liebich)</p> <p>Week #15 Feedback</p>											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーリ語について(言語的特徴などについて概説)</li> <li>・精読に必要な辞書や文法書などの紹介</li> <li>・講読テキストのプリント配布</li> <li>・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど)</li> </ul> <p>第2回-5回：テキスト講読：ソーマダッタ本生譚(Somadattajataka)</p> <p>第6回-9回：テキスト講読：アッサカ王本生譚(Assakajataka)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：サッバダータ本生譚(Sabbadatajataka)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。</li> <li>・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。</li> </ul>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### 【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。  
（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

### 【教科書】

プリント配布

### 【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

### 【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系94

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用できるようになる。乞食に関わる規定の撰文を読むことで、命あるものとはどういう状態をいうか、受け取ってよい飲食物はどのようなものか等、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介                  2回目:母音と子音の音韻変化                  3回目:名詞変化                  4回目:代名詞の変化                  5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形)                  6回目:過去自制、分詞etc.                  7回目~10回目:出家者にとっての禁止行為を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』第3章の乞食に関わる詩節の読解                  11回目~15回目:乞食に関わる規定を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』第5章からの撰文読解と、全体的なまとめ                  テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											



## インド古典学(演習)(2)

### [教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.  
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系95

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系96

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系97

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 教科書のうち、「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～14回 「カタールサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は毎回2頁程度の進度で読み進める予定である。フィードバックの方法は授業中に指示する。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験によって評価する。											
【教科書】											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』(Motilal Banardidass) ISBN:978-81-208-1362-2(インド学研究室にて購入できる。)											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分できなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリ文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

### (その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましいが、どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定准教授 天野 恭子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])									
[授業の概要・目的]											
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。											
[到達目標]											
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学び、どの時代の、どのジャンルのサンスクリット文献にも対応できる読解力の基礎を身につける。特に、語形等に独特の特徴を持つ初期サンスクリット語(ヴェーダ語)をも読解できる力を身につける。											
[授業計画と内容]											
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに記載されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表するが、それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。											
第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、マイトラーヤニー・サンヒター、シャタパタ・ブラーフマナ)。											
[履修要件]											
サンスクリット文法既習者。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。											
[教科書]											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2(インド学研究室にて購入できる。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の予習・復習が必須である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools &amp; Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert &amp; von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p> <p>4.1. Important Scholars</p>											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### **【履修要件】**

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### **【成績評価の方法・観点】**

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### **【教科書】**

授業中に指示する

### **【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

### **【授業外学修(予習・復習)等】**

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

インド古典学(講読)(3)へ続く



インド古典学(講読)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools &amp; Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert &amp; von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p> <p>4.1. Important Scholars</p>											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### **【履修要件】**

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### **【成績評価の方法・観点】**

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### **【教科書】**

授業中に指示する

### **【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

### **【授業外学修(予習・復習)等】**

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系101

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・チベット学・仏教学フランス語文献の講読									
[授業の概要・目的]											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた「La civilisation tibétaine」の様々な箇所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
[到達目標]											
印度古典学・チベット学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1回            イントロダクション 第2－15回    テキストの講読											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎授業の前、講読する箇所の予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳および英訳し発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系102

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

**[履修要件]**

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・平常点(練習問題への理解度、および理解への積極性、50点)
- ・年度末筆記試験(50点)。

**[教科書]**

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社)ISBN:978-4393101728

必要に応じて、補助資料(プリント)を配布します。

**[参考書等]**

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)ISBN:978-4000202220

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系103

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)  (2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit  (3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit  (4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit  (5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry 's Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.</p> <p>First semester  Week #01 Introduction to Sanskrit language  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.  Week #15: Feedback</p> <p>Second semester  Week #01 Review course content of lessons 1 to 22  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.  Week #15: Feedback</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											



サンスクリット ( 4 時間コース ) ( 語学 ) ( 2 )

**[成績評価の方法・観点]**

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

**[教科書]**

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』 ( Orient Book Distributors, 1986 ) ISBN:978-8120802070 ( both English and Japanese version will be used )  
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』 ( Cambridge University Press, 2017 ) ISBN:978-1107459069 ( <https://www.cambridge-sanskrit.org> )  
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erläuterungen』 ( de Gruyter, 1978 ) ISBN:978-3110071771  
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連 URL )

<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php>(Sanskrit-English Dictionary)  
<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php> (English-Sanskrit Dictionary)  
<https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1>(Rigveda explained)  
<http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/>(Dictionaries of Indian languages)  
<http://www.indoskript.org/letters>(Scripts)

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

( その他 ( オフィスアワー等 ) )

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系104

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		追手門学院大学 国際教養学部 准教授 小松 久恵			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
21世紀の世界において重要な役割を果たすと予想される巨大国家インドの公用語ヒンディー語の初等文法と簡単な会話を学ぶ。また映像・画像などのビジュアルを通して、急激に変化を遂げる現代インド社会に触れる。インド古典文学の専攻者だけでなく、将来商社マン・外交官あるいは技術者として南アジア地域での活動を希望する諸君にも是非受講してもらいたい。											
【到達目標】											
インドでは英語が通じると言われるが、実際には、英語を不自由なくしゃべることのできる話者数は全人口の5パーセントにも満たない。インド人と深い意思疎通をするためには現地語を知ることが不可欠となる。インドの公用語であるヒンディー語を通して異文化世界としての北インドについて学び、世界認識の幅を広げる。ヒンディー文字を習得し、ヒンディー語の初級文法と簡単な会話を理解する。											
【授業計画と内容】											
教科書を毎回一課の速度で進んでいき、1年で文法を一通り終えて読み物を読んだり、簡単な会話ができるようになることを目標とする。また適宜、映画を用いて音声でのヒンディー語のみならずインドの社会風俗にも触れる。											
前期											
1．導入【1週】											
2．文字と発音【4週】											
3．文法と会話【9週】											
4．中間試験【1週】											
5．中間試験のフィードバック【1週】											
後期											
6．文法と会話【8週】											
7．文法と絵本・新聞講読【6週】											
8．期末試験【1週】											
9．期末試験のフィードバック【1週】											
【履修要件】											
授業には継続的に参加すること。											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（30％）と筆記試験（期末30％、年度末40％）によって評価する。

### 【教科書】

町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水）ISBN:978-4-560-06791-8（同著者の「CDエクスプレス、ヒンディー」とは別の本なので、間違えないこと）

### 【参考書等】

（参考書）  
辞書については初回の授業で紹介する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前日までに前回の講義内容を見直し、特に前回の練習問題を復習しておく。インド関係の情報に関心を持つこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語(中級)I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級I									
【授業の概要・目的】											
本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。											
【到達目標】											
1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。											
【授業計画と内容】											
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。  第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか 第6～10週目：インド神話関連の物語 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）  なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。											
【履修要件】											
・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。 ・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）											
----- ヒンディー語(中級)I(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）I(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)  
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)  
[https://www.youtube.com/channel/UCVP73\\_P70GlqgG618HNX8qg](https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqgG618HNX8qg)(Panchatantra Stories in Hindi)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta（インドのヒンディー語新聞）)  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times（インドのヒンディー語新聞）)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）)  
<https://www.youtube.com/user/aajaktv>(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 准教授 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。											
【到達目標】											
1. 複雑な文章を精読できるようになる。 2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。 3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。 4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。											
【授業計画と内容】											
本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。  第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌 第6～10週目：新聞記事、TVニュース 第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマーヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど）  なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。 また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。											
【履修要件】											
・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。 ・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。 ・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加（40%） 期末試験あるいはレポート（60%）											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）Ⅱ(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Aacharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系107

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



東洋文化学系108

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。初回から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『金剛般若経』から漢訳仏典を学ぶ(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>『金剛般若経(こんごう・はんじゃきょう)』はインド中国で最もよく読まれた大乘般若経である。サンスクリット語原典には異なる数種があり、また中国で訳された漢訳にも複数種類ある。岩波文庫に収める漢訳とサンスクリット語原典が唯一のものではないし、岩波文庫の和訳も問題を含む箇所がある。この授業では、インド中国の大乘佛教を知るための素材として、『金剛般若経』のサンスクリット語原典・漢訳数種・チベット語訳を比較しながら、細かな相違を適確に理解する読解訓練を行いながら、特に漢訳諸本の訳語のニュアンス(含蓄)にどのような違いがあるかを、原文に即して理解できるようにすることを目指す。</p> <p>またその基となる基本知識として、佛教漢語の特色・訳語(漢訳)の特異性・大蔵経の使い方・佛教漢語の意味を確定するために行う常套的手法も身に付けるようにする。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大正大蔵経の使用するときの注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：『金剛般若経』の思想的特徴と言語的特徴</p> <p>第4回：『金剛般若経』の書誌(原典・前近代の諸訳・注釈・主要研究)</p> <p>第5回：五世紀初頭の鳩摩羅什訳『金剛般若波羅蜜経』精読(1)</p> <p>第6回：『同』精読(2)</p> <p>第7回：『同』精読(3)</p> <p>第8回：『同』精読(4)</p> <p>第9回：『同』精読(5)</p> <p>第10回：『同』精読(6)</p> <p>第11回：六世紀前半の菩提流支訳『金剛般若波羅蜜経』の特徴(1)</p> <p>第12回：六世紀前半の菩提流支訳『金剛般若波羅蜜経』の特徴(2)-宋思溪版の特徴</p> <p>第13回：六世紀後半の真諦訳『金剛般若波羅蜜経』の特徴</p> <p>第14回：六世紀末の笈多訳『金剛能断般若波羅蜜経』の読解不可能性</p> <p>第15回：前期の総括</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

中村元・紀野一義 『般若心経 金剛般若経』（岩波文庫、岩波書店）ISBN:978-4003330319（鳩摩羅什の漢訳とサンスクリット語原典についての訳注）

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『金剛般若経』から漢訳仏典を学ぶ(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>『金剛般若経(こんごう・はんにゃきょう)』はインド中国で最もよく読まれた大乘般若経である。サンスクリット語原典には異なる数種があり、また中国で訳された漢訳にも複数種類ある。岩波文庫に収める漢訳とサンスクリット語原典が唯一のものではないし、岩波文庫の和訳も問題を含む箇所がある。この授業では、インド中国の大乘佛教を知るための素材として、『金剛般若経』のサンスクリット語原典・漢訳数種・チベット語訳を比較しながら、細かな相違を適確に理解する読解訓練を行いながら、特に漢訳諸本の訳語のニュアンス(含蓄)にどのような違いがあるかを、原文に即して理解できるようにすることを目指す。</p> <p>またその基となる基本知識として、佛教漢語の特色・訳語(漢訳)の特異性・大蔵経の使い方・佛教漢語の意味を確定するために行う常套的手法も身に付けるようにする。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期のまとめ。無著菩薩造・達磨笈多訳『金剛般若論』中の達磨笈多訳経本</p> <p>第2回：七世紀中期の玄奘訳『能断金剛般若波羅蜜経』の特徴</p> <p>第3回：七世紀後期の玄奘訳『大般若経』の「能断金剛分」の特徴。玄奘両訳の関係</p> <p>第4回：八世紀初頭の義浄訳『金剛能断般若波羅蜜経』の特徴</p> <p>第5回：サンスクリット語原典中の相違</p> <p>第6回：サンスクリット語原典と漢訳諸本の相違</p> <p>第7回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(1)</p> <p>第8回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(2)</p> <p>第9回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(3)</p> <p>第10回：特に際だった相違箇所の諸本を比較検討する(4)</p> <p>第11回：チベット語訳から知られる特色</p> <p>第12回：『金剛般若経』の登場する漢語の佛教説話(1)</p> <p>第13回：『金剛般若経』の登場する漢語の佛教説話(2)</p> <p>第14回：『金剛般若経』の登場する漢語の佛教説話(3)</p> <p>第15回：後期の総括および通年のまとめ</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### 【教科書】

使用しない  
教科書は使用しません。  
授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

### 【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

中村元・紀野一義 『般若心経 金剛般若経』（岩波文庫、岩波書店）ISBN:978-4003330319（鳩摩羅什の漢訳とサンスクリット語原典についての訳注）

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：  
配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。  
授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。  
授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』におけるブツダ所説の伝承(ア ガマ)用語に対する解説、並びに、「大悲」という仏教術語の解説についての研究									
[授業の概要・目的]											
<p>ゴータマ・ブツダは、紀元前500年～300年頃の或る時期、ガンジス川の中流域を活動の中心地として、80年の生涯を送った人物である。東アジアに広まる仏教の創始者となる。20代の終わり頃、ブツダは覚醒体験を経て、その数ヶ月後、自覚内容を言葉化したとき、有情/衆生の存在の中核には苦しみがあると宣言する。この真理内容は、「四諦」「五蘊」「縁起」の所説として今に伝わる。このブツダの所説を伝える伝承(ア ガマ)が、古典インド文化圏における大乘仏教の二潮流の一つ、瑜伽行派の根本論書である『瑜伽師地論』の中において、どのような言葉として伝わり(パリに伝承される文言との比較吟味を行い)、また、解説(ヴィバンガ)が行われるのか、サンスクリットで(現存する写本から知られる限りの)当該論書に伝わるアーガマ伝承を主たる検証の対象とし、7世紀の漢訳(玄奘訳)や9世紀のチベット訳を参照しながら精査・考察する。そして、アーガマの中では用語として伝わらない「大悲」なるブツダ固有の特性を表現する仏教術語について、当該論書や大乘経における理解についても考察する。</p>											
[到達目標]											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、『瑜伽師地論』の概説から始め、ブツダの言葉の伝承(アーガマ)についての基本的知識の確認を行い、『瑜伽師地論』『撰異門分』に伝わるアーガマ、並びに、その中の(ブツダの)用語に対する解説について、注目すべき用語(具体的には、悟りを獲得するための基本的な自己開発能力である「五根」)を取り上げ、文献学的な分析を行う。</p> <p>第1回 『瑜伽師地論』の概説と、ブツダ所説の伝承(アーガマ)についての基本情報  第2回 ブツダ所説の伝承(アーガマ)、特に、パーリ伝承の「五根」の所説と、『瑜伽師地論』『撰異門分』における「五根」(信・勤・念・定・慧の中、信と勤の)解説について  第3回 『瑜伽師地論』『撰異門分』における「五根」(の中、念・定・慧の)解説について  第4回 『瑜伽師地論』に伝わる「大悲」の伝承について  第5回 『瑜伽師地論』における「大悲」の解説について  第6回 初期の大乘経における「大悲」の説明について  第7回 アビダルマ諸論書、並びに、中観派の諸論書における「大悲」の理解について  第8回～第15回 サンスクリット・テキストの講読  第8回から第15回は、前期前半で取り上げた各サンスクリット・テキスト箇所について、パーリやチベット訳・漢訳との比較吟味を行いながら、文献学的に精読し、分析を行う。  なお、前期後半では、学位論文(卒業論文、修士論文、並びに、博士課程論文)の作成を目指している受講者と相談の上で、そのそれぞれの研究対象テキスト(の一部)を精読することも考える。</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点。  
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。  
テキスト解読に対するサンスクリット読解力の程度をもって評価します。

### 【教科書】

授業中に指示する  
テキスト(サンスクリット原典、チベット訳、漢訳、並びに、校訂テキスト)は、適宜、コピー配布します。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』におけるアーガマ、並びに、「大悲」の解説についての研究									
[授業の概要・目的]											
<p>前期授業で扱った各テキスト箇所 of 解説内容との吟味を行いつつ、継続して『瑜伽師地論』におけるアーガマ解説を文献学的に分析する。併せて、ブッダは瞑想実践中に一切世界の有情/衆生を個々に見定めたとき、悲しみ(カルナー)の極みに至り、あらゆる生き物が苦しみから脱(のが)れてあれかしとの思願を発する。後の仏教徒たちによって、「大悲」(マハー・カルナー)という用語で語り継がれ、大乘仏教徒たちの理想像である「菩薩」の思願と重ね合わされるようになる。この「大悲」について、『瑜伽師地論』における解説の分析を目的として、大乘の初期経典(例えば、『八千頌般若経』『無量寿経』『十地経』)、アビダルマの諸論書、並びに、中観派の諸論書(特に、『プラサンナパダー』)における理解の仕方・捉え方を比較しつつ、前期に引き続き、思索を深めて行く。</p> <p>なお、学位論文(卒業論文、修士論文、並びに、博士課程論文)の作成を目指している受講者との相談のうえで、そのそれぞれの研究対象テキスト(の一部)を精読することも考える。</p>											
[到達目標]											
サンクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、ブッダが瞑想中に発した悲しみの思願、そして、その思願を表現した「大悲」についての経典伝承、大乘経、並びに、諸論書における「大悲」についての理解の概要を講義し、次いで、テキストの精読へと進む。</p> <p>第1回 「大悲」についての概説、特に、パーリに伝わる「梵天勧請」について</p> <p>第2回 (1) アビダルマにおける「大悲」の教義解釈</p> <p>第3回 (2) 初期の大乘経における「大悲」の捉え方</p> <p>第4回 (3) 大乘の諸論書における「大悲」の捉え方</p> <p>第5回～第15回 サンスクリット・テキストの講読</p> <p>第5回から第15回は、『阿毘達磨俱舍論』における基本的な「大悲」についての教義解釈をサンスクリット原典から確認する。その上で、「大悲」を謳う大乘経(『八千頌般若経』『無量寿経』『十地経』など)、並びに、大乘の諸論書(『プラサンナパダー』など)のサンスクリット・テキストを精読して行く。</p> <p>なお、後期後半でも、前期同様に、学位論文(卒業論文、修士論文、並びに、博士課程論文)の作成を目指している受講者と相談の上で、そのそれぞれの研究対象テキスト(の一部)を精読することを考える。</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											



## 仏教学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。

### [成績評価の方法・観点]

平常点。  
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。  
テキスト解読に対するサンスクリット読解力の程度をもって評価します。

### [教科書]

授業中に指示する  
テキスト(サンスクリット原典、チベット訳、漢訳、並びに、校訂テキスト)は、適宜、コピー配布します

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism</li> <li>- Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

**(その他(オフィスアワー等))**

DEROCHE Marc-Henri: [deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp](mailto:deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝から見た隋の仏教：『続高僧伝』講読（一）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進めるが、進捗状況に応じて柔軟に対応する。講読にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳担当を御願います。それが難しい場合はレポート提出とする。</p> <p>前期は講義では主に北朝後期から隋代の僧をとりあげ、北周の廢仏と隋文帝の仏教復興政策とインド・西域の仏教との関係について考察する。講読は前年度に引き続き隋の訳経僧、闍那崛多の伝から読み進める。</p>											
【到達目標】											
<p>内容面</p> <p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、北朝・隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p> <p>技能面</p> <p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A・S A Tなどの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書</p> <p>第2回：『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明</p> <p>第3回：『続高僧伝』講義 隋代の訳経僧：那連提黎耶舎・闍那崛多・</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

達摩笈多・彦琮

- 第4回：『続高僧伝』講読（1）
- 第5回：『続高僧伝』講義：曇延
- 第6回：『続高僧伝』講読（2）
- 第7回：『続高僧伝』講義：曇遷
- 第8回：『続高僧伝』講読（3）
- 第9回：『続高僧伝』講義：浄影寺慧遠
- 第10回：『続高僧伝』講読（4）
- 第11回：『続高僧伝』講義：靈裕
- 第12回：『続高僧伝』講読（5）
- 第13回：『続高僧伝』講義：智顛
- 第14回：『続高僧伝』講読（6）
- 第15回：『続高僧伝』講義：志念

### 【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況または小レポート）100%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

仏教学(特殊講義)(3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		隋代の寺院と僧伝：『続高僧伝』講読（二）									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂がなされ、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、基本は講義形式と講読形式を交互に併用して進める。進捗状況に応じて柔軟に対応する。主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。なお時間の関係上適宜省略しつつ読み進める。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>講読にあたっては受講者の状況に応じて、一部分の現代語訳担当を御願います。それが難しい場合はレポート提出とする。講読は前期に引きつづいて訳経篇を読み進める。</p> <p>後期は講義では主に隋代の代表的な寺院をテーマとする。北周の廃仏をうけた後の隋代の寺院の建立と隋文帝の仏教復興政策との関係について考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な寺院を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p>											
技能面											
<p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A Tなどの電子仏典資料について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期の内容を簡単に復習し、後期の内容について説明する。</p> <p>第2回：『続高僧伝』講義：大興善寺・東都上林園翻經館</p> <p>第3回：『続高僧伝』講読（1）</p> <p>第4回：『続高僧伝』講義：禅定寺・大禅定寺</p> <p>第5回：『続高僧伝』講読（2）</p> <p>第6回：『続高僧伝』講義：蒲州栖巖寺・仁寿舍利塔事業</p> <p>第7回：『続高僧伝』講読（3）</p> <p>第8回：『続高僧伝』講義：煬帝と江南仏教（長安日嚴寺・江都・東都慧日道場）</p> <p>第9回：『続高僧伝』講読（4）</p> <p>第10回：『続高僧伝』講義：隋長安の尼寺</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

- 第11回：『続高僧伝』講読（5）  
第12回：『続高僧伝』講義：天台山国清寺・荊州玉泉寺  
第13回：『続高僧伝』講読（6）  
第14回：『続高僧伝』講義：その他主な長安寺院  
第15回：『続高僧伝』講読（7）

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況・小レポート）100%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けませんが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



東洋文化学系116

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (I)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism</li> <li>- Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

(その他(オフィスアワー等))

DEROCHE Marc-Henri: [deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp](mailto:deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系117

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。第15回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 東洋文化学系118

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梵文仏典写本研究のための基礎知識									
[授業の概要・目的]											
インド本土において衰退した大乘仏教を研究するために現在われわれの手元に残されているのは、インド周辺諸国において翻訳という形で伝承された仏典翻訳文献と、写本として伝来されている梵文原典とである。このうち写本資料は仏典原典の言語をダイレクトに今に伝える貴重な資料であり、近年その研究が飛躍的に進んでいる。授業では梵文仏典写本研究の現状と課題について理解し、写本を実際に読解しながら、文字解読をはじめとする基礎的な能力の養成を目的とする。											
[到達目標]											
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。											
[授業計画と内容]											
冒頭数回の授業では、インドに由来する梵文仏典写本研究の現状について、特に、ネパール・チベット伝来の写本を中心に概観する。さらに写本読解のための基礎知識を養うために、従来刊行されてきた写本の文字表や、梵文写本独特の綴り字法などについて説明する。また、写本の所有者にまつわる逸話を紹介し、来歴と伝承過程について補足する。これらの基礎知識を習得した後は、実際に写本の読解に入る。素材としては、未読の断片写本をサンプルとして用いる。特に、写本の読みに問題がある場合の対処法と有効な手続きについて詳しく論じる。授業は演習形式とするが初心者も歓迎する。											
第一～三回 歴史的背景の概説と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系120

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教思想研究(インド宗教哲学文献精読)									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
[到達目標]											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
<p>初回はAbhidharmakosaのイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行う。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
[教科書]											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 東洋文化学系121

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教思想研究(インド宗教哲学文献精読)									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
[到達目標]											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
初回～第15回で、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行う。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
[教科書]											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36											
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		宗教情報センター 京都支社 研究員				佐藤 直実	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		大乘仏教經典の読解											
【授業の概要・目的】													
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第5章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と並び、東西他土仏の双璧をなす。最も古い他土仏の一人であり、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章ある『阿しゆく仏国經』の中から、阿しゆく仏の入滅と香象菩薩への授記、また正法が滅する理由を記す第5章をとりあげる。</p> <p>阿しゆく仏は、香象菩薩に授記すると、体を燃やし尽くし般涅槃する。遺骸は金色に輝き、卍などの吉祥紋をほとばしらせ、それをもとに、衆生は七宝の塔を建てる。そして、阿しゆく仏の入滅後、正法は長い間とどまるが、その後、埋没すると記される。</p> <p>漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても外観したい。</p>													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成</li> <li>2) 大乘仏教の基礎知識の習得</li> <li>3) 仏教文献学の研究手法の習得</li> </ol>													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第5章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>													
【履修要件】													
わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。													
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----													



## 仏教学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。  
テストは行わない。

### [教科書]

授業中に資料を配付する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

### (その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成（Tattvasamgraha）』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注（Tattvasamgrahapanjika）』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章（特に第8章「存続する存在の考察」）の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。</li> <li>・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。</li> <li>・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。</li> <li>・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。</li> <li>・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学（特に刹那滅論と因果論）についての概説  第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説  第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説（受講生による輪読形式）  第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

## 仏教学(演習)(2)

### [履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

### [成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

### [教科書]

授業中に指示する  
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーリ語について(言語的特徴などについて概説)</li> <li>・精読に必要な辞書や文法書などの紹介</li> <li>・講読テキストのプリント配布</li> <li>・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど)</li> </ul> <p>第2回-5回：テキスト講読：ソーマダッタ本生譚(Somadattajataka)</p> <p>第6回-9回：テキスト講読：アッサカ王本生譚(Assakajataka)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：サッバダータ本生譚(Sabbadatajataka)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。</li> <li>・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。</li> </ul>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

## 仏教学(演習)(2)

### 【履修要件】

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

### 【教科書】

プリント配布

### 【参考書等】

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』（The Pali Text Society）ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』（山喜房佛書林）ISBN:4-7963-0010-4

### 【授業外学修（予習・復習）等】

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用できるようになる。乞食に関わる規定の撰文を読むことで、命あるものとはどういう状態をいうか、受け取ってよい飲食物はどのようなものか等、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介                  2回目:母音と子音の音韻変化                  3回目:名詞変化                  4回目:代名詞の変化                  5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形)                  6回目:過去自制、分詞etc.                  7回目~10回目:出家者にとっての禁止行為を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』第3章の乞食に関わる詩節の読解                  11回目~15回目:乞食に関わる規定を述べる『ダサヴェーヤーリヤ』第5章からの撰文読解と、全体的なまとめ                  テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
【教科書】											
授業中に指示する コピーを配布する 渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010. F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 岸野 良治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		戒律文献の講読：「根本説一切有部律（こんぽんせついつさいうぶりつ）」を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>18世紀にヨーロッパで成立した近代仏教学（インド仏教研究）では、当初より経典や論述書といった教義に直接関わる文献が研究の中心であった。結果、インド仏教徒の思想については解明が進む一方で、彼らの活動や生活の実態は充分には明らかにされていない。この偏重を是正する試みの一つとして、20世紀後半より律（vinaya）の研究が本格的に進められている。律とは、ブッダの入滅後、数世紀の間に形成された仏教グループ（部派）によって、経（sutra）と並んで、ブッダの直説として伝持されたテキストである。そこには出家者個人や教団全体が遵守すべき行動規範、儀礼作法から、説話、教団史に至るまで多種多様な情報が集められており、現在に至るまで教団運営の基盤として強い権威を持ち続けている。</p> <p>律は、まとまった形では所属部派の異なる六種類が現存している。そのうち、四つは漢訳のみで現存し（『四分律』『五分律』『十誦律』『摩訶僧祇律』）、一つはパーリ語のみで現存する（「パーリ律」）。残るもう一つの律は、チベット語訳で全てが、義浄（635 - 713）訳で三分の二ほどが、サンスクリットで四分の一ほどが現存する「根本説一切有部律」である。「根本説一切有部律」は浩瀚で、綱要書や注釈書も比較的多く現存し、またチベット・漢字文化圏の両域に伝播した唯一の律典でもあるため、他律を凌ぐ資料的価値を有している。そのため、昨今では、律研究者はもとより、写本、説話、美術、建築等の様々な領域の専門家により注目・参照され、その全貌解明が進んでいる。</p> <p>本授業では、この学術的な関心が高まっている「根本説一切有部律」（ないしは、その綱要書）を輪読する。ただし、この律典は、先に述べた通り浩瀚である。そのため、授業においてはその一部分しか解読することはできないが、実際にどの部分を読むかは、初回の授業において受講生の関心や意欲に応じて決定する。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) サンスクリットやチベット語訳・漢訳で現存する仏教文献を精読することができるようになる。</li> <li>2) 律（Skt. vinaya）についての基礎知識を身につけることができるようになる。</li> <li>3) 仏教文献を批判的に精読する文献学的アプローチに基づく仏教研究の研究手法を習得することができるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、イントロダクションとして「根本説一切有部律」についての概説的な説明をし、第2回目からは、課題テキストを精読しながら、関連する諸問題について議論する。第15回目の授業にはフィードバックを行う。</p> <p>フィードバックの方法等は、授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
サンスクリットとチベット語訳で現存する仏教文献を解読する基本的な能力を既に身につけていることが求められる。											
----- 仏教学(演習) (2)へ続く -----											



## 仏教学(演習) (2)

---

### [成績評価の方法・観点]

本授業では、仏教文献の輪読を主とするものであるため、そのための準備の周到さ、実際の解読における正確さなどを総合的に勘案して成績をつける（テストは行わない）。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

授業時には、課題テキストを輪読するので、毎回その和訳を用意しておくことが求められる。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools &amp; Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert &amp; von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p> <p>4.1. Important Scholars</p>											
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 仏教学(講読Ⅰ)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### 【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### 【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools &amp; Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert &amp; von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p> <p>4.1. Important Scholars</p>											
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 仏教学(講読Ⅰ)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### 【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### 【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系129

科目ナンバリング		U-LET14 31853 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読II) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語及び英語
題目		印度古典学・チベット学・仏教学フランス語文献の講読									
【授業の概要・目的】											
Rolf A. Stein(1911-1999)によって書かれた『La civilisation tibétaine』の様々な個所を講読する。本傑作は、地理的、歴史的、社会的、文化的、宗教的、哲学的なあらゆる観点からのアプローチによりチベットの文明を紹介しており、チベット語また中国語の原典、チベット渡航者による見聞録、そして現代研究に基づいて書かれている。授業では、特にチベットを偉大なインドと中国文明の交点と考えることでチベットにおける仏教の伝承を中心に考察する。											
【到達目標】											
印度古典学・チベット学・仏教学に関するフランス語の二次文献を自立的に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回            イントロダクション 第2－15回    テキストの講読											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による（参加度と発表から総合的に判断する）。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） Rolf A. Stein 『La civilisation tibétaine』（Paris: L'Asiatheque, 1996 (1987)） コピーを配布する。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎授業の前、講読する箇所の予習が必要である。毎回、学生一人がフランス語を和訳し、発表する。											
（その他（オフィスアワー等））											
DEROCHE Marc-Henri: deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



科目ナンバリング		U-LET49 29628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（1週）</li> <li>2. 文字と発音（4週）</li> <li>3. 名詞（4週）</li> <li>4. 形容詞（1週）</li> <li>5. 助動詞（3週）</li> <li>6. まとめ（1週）</li> <li>7. フィードバック（1週）</li> </ol> <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

## チベット語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、平常点（100％）によって評価する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系133

科目ナンバリング		U-LET49 29629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語(初級)(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語(初級)に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞(5週)</li> <li>2. 複文他(5週)</li> <li>3. チベット語テキスト演習(4週)</li> <li>4. フィードバック(1週)</li> </ol> <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語(初級)を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
成績は、平常点(100%)によって評価する。											
----- チベット語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

チベット語(初級)(語学)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 東洋文化学系134

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけではなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

手ペット語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系135

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。